

# 工事説明書

蓄電システム

ESS-U3S1

ESS-U3S1J

室内リモコン

ESS-R3

- この工事説明書は、蓄電システムの保守および施工方法について、工事店様向けに説明しています。保守および施工作業従事者のみご使用ください。
- 蓄電システムの保守および施工に際して下記のことを守ってください。
- 施工されるときは、本書をよくお読みになり、十分にご理解のうえ、正しく安全に施工を行ってください。
- 蓄電システムの施工は、電気の知識を有する専門家が行ってください。

# 目次

## 工事を始める前に

安全のために必ずお守りください.....	3
[1] 設置に関する注意事項.....	4
[2] 電気工事に関する注意事項.....	6
外形寸法図.....	8
各部の名称.....	9
付属品.....	11
オプション品.....	12
現地調達品.....	12

## 全体システム構成

本システムに関する注意事項.....	13
標準単線結線図.....	14
標準接続図.....	15
[1] オプション分電盤を使用しない場合.....	15
[2] オプション分電盤を使用する場合.....	16
主な周辺機器.....	17

## 工事の流れ

工事の流れ.....	19
------------	----

## 蓄電ユニットの設置、配線

蓄電ユニットの設置場所の選定.....	20
蓄電ユニットの開梱.....	21
簡易基礎と蓄電ユニットの据付.....	22
蓄電ユニットの配線.....	23
[1] 天板の取り外し.....	23
[2] DC ブレーカの確認.....	23
[3] 電力ケーブル、通信ケーブルの配線エリアへの 引き込み.....	24
[4] 電力ケーブルの切断、外皮の剥ぎ取り.....	25
[5] 電力ケーブルのメンテナンスエリアへの 仮引き込み.....	26
[6] 端子処理および電力ケーブル、通信ケーブルの 本引き込み.....	26
[7] 通信ケーブルの接続.....	27
[8] 電力ケーブルの接続.....	27
[9] 絶縁抵抗の測定.....	29
[10] 配線パネルの本固定.....	30

## 室内リモコンの設置、配線

室内リモコンの準備、確認.....	31
室内リモコンの設置、配線.....	31

## CT の設置、配線

CT の設置、配線.....	33
----------------	----

## 蓄電システムの試運転

蓄電システムの試運転を始める前に.....	34
蓄電ユニットの電源投入前点検.....	34

蓄電ユニット・室内リモコンの試運転・試験.....	35
試運転 / 試験.....	36
[1] 蓄電システムの試運転.....	36
[2] 試運転中に中止させる方法.....	38
[3] 接続確認.....	39
[4] 整定値・設定値の確認.....	40
[5] 端子電圧の確認.....	41
[6] 充放電動作の確認.....	42
[7] 発電機器との連携動作確認.....	44
[8] 停電時の動作確認.....	45
[9] 試運転を完了させる.....	49
[10] 登録情報の設定.....	50
[11] 設定情報の確認および設定.....	51
[12] 初期値の確認.....	53
[13] 運転情報の確認.....	55
[14] お知らせリスト履歴の消去.....	56
[15] サービスモードを解除する.....	57
[16] 蓄電システムの停止方法.....	57
[17] サービスモードへの切り替え方法.....	59

## 最終作業

蓄電ユニットの最終作業.....	61
[1] パテ埋め.....	61
[2] 天板の取り付け.....	61
蓄電システムの最終確認.....	62
お客様への動作説明.....	62
施工完了後.....	62

## 点検コードの表示について

エラーが発生（点検コードが表示）したら.....	63
--------------------------	----

## こんなときは

主な点検方法と対処方法.....	66
点検コードは表示されないが、放電しない場合 (または放電量が異常に少ない場合).....	67



## 付録

室内リモコン各部の名称とはたらき.....	68
[1] 室内リモコンの本体について.....	68
[2] 室内リモコンの表示について.....	68
[3] 運転モードを選ぶ.....	69
[4] 非常時（停電時）の設定をする.....	71
[5] 充放電時間を設定する.....	74
[6] 室内リモコンのタッチパネルや操作音の 設定を変える.....	76
[7] 日時の設定.....	78
ネットワークの設定をする.....	80
ネットワーク接続の通信状態を確認する.....	85
日除け板.....	86
日除け板取付け（日除け板が必要な場合）.....	86
仕様.....	87







# 安全のために必ずお守りください

- 設置工事を始める前に、必ず工事説明書（本書）と取扱説明書をお読みになり、正しく安全に作業を行ってください。
- 蓄電池は、感電および大きな短絡電流を発生する可能性があります。本書の「電気工事に関する注意事項」（6 ページ）を必ずお守りください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ずお守りください。
- 工事中に異常を発見した場合は速やかに工事を中断し、販売会社までご連絡ください。
- 工事説明書（本書）に記載されている、および販売会社指示以外の設置や加工は絶対に行わないでください。
- 製品を廃棄する場合は、一般ゴミ、粗大ゴミとして廃棄せず、販売会社にご確認ください。

■ 次の表示は、誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分しています。

 <b>警告</b>	取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される事項
 <b>注意</b>	取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う可能性が想定される事項、および物的損害のみの発生が想定される事項

■ 本書で使用している図記号の意味は次のとおりです。

 <b>禁止</b>	 <b>指示に従い必ず行う</b>	 <b>必ず接地線を接続する</b>
 <b>感電注意</b>	 <b>分解禁止</b>	 <b>ぬれた手で触らない</b>

## 安全のために必ずお守りください

### [1] 設置に関する注意事項

※蓄電システム：蓄電ユニットおよび室内リモコンの総称です。



#### 警告

##### ■ 次のような場所には取り付けない

###### 蓄電ユニット

- 標高 1500m より高いところ
- 岩礁隣接地域
- 重塩害地域（対象型番は ESS-U3S1）  
（5 ページ）
- 揮発性、可燃性、腐食性およびその他の有害  
ガスのあるところ
- 振動、衝撃の影響が大きいところ
- 油蒸気、結露のあるところ
- 浸水の恐れがあるところ
- 電界の影響が大きいところ
- 直射日光が当たるところ
- ※ 日除け板（オプション品）を使用することにより設置可能な場合があります
- 風通しが悪いところ
- 次の温度範囲以外のところでは、動作を停止します  
温度：-10℃～+40℃  
（温度範囲に戻ると、自動復帰します）

###### 室内リモコン

- 屋外
- 温度変化が激しいところ
- 揮発性、可燃性、腐食性およびその他の有害  
ガスのあるところ
- 振動、衝撃の影響が大きいところ
- 水蒸気、油蒸気、雨水、結露のあるところ
- 浸水の恐れがあるところ
- 電界の影響が大きいところ
- 直射日光が当たるところ
- 次の温度範囲以外のところ  
温度：0～+40℃、湿度：25～85%RH  
（ただし、結露および氷結なきこと）
- 通風を妨げ、使用条件温度を超えるような押  
入れや階段下などの狭い場所
- 操作が困難で、表示部が確認しづらいところ



#### 注意

##### ■ 取り付けには、必ず同梱の部材を使用する

同梱されていない部材については最新の工事説明書に指定された部材を使用してください。



##### ■ 積雪地での蓄電システム設置方法

積雪地では、以下の点を考慮の上、設置工事をしてください。

###### 1. 設置環境

蓄電システムが雪で埋没しないような設置が必要です。  
特に、左右側面の吸排気口が塞がれてしまうと蓄電システムが異常停止する可能性が高くなります。  
基礎高さ、雪囲いなどにより、蓄電システムの埋没を防止するように工事してください。  
蓄電システム上部に、建物の屋根などから雪庇、つららなど落下する可能性がある場合は、蓄電システムの破損を防止するため、蓄電システム上部に保護用の屋根などを設置してください。

###### 2. 積雪荷重

蓄電システムの積雪耐荷重は、6000N/m<sup>2</sup>にて設計されております。地方自治体により積雪耐荷重の基準が異なりますので、設置地域の条例をご確認ください。また、雪質・積雪量によりこれ以上の荷重が加わる場合がありますので、現地の積雪事情を考慮の上、屋根の設置等の対応をしてください。

###### 3. 基礎高さ

基礎高さは、融雪水が蓄電システムに流れ込まない様にかさ上げをしてください。積雪と除雪の状態を考慮して、地盤面より40cm以上を推奨します。また、降雪期間中は、降雪毎に除雪をお願いします。



## 塩害の影響による設置可否について

本製品が設置可能な場所を下表のように定めています。

### 【型番：ESS-U3S1】

本製品は、「沖縄・離島以外の地域、かつ、重塩害以外の場所」であれば設置可能です。

塩害レベルによる区分	地域による区分	
	沖縄・離島	沖縄・離島以外の地域
重塩害	×	×
重塩害以外	×	○

○：設置可、×：設置不可

### ■地域による区分について

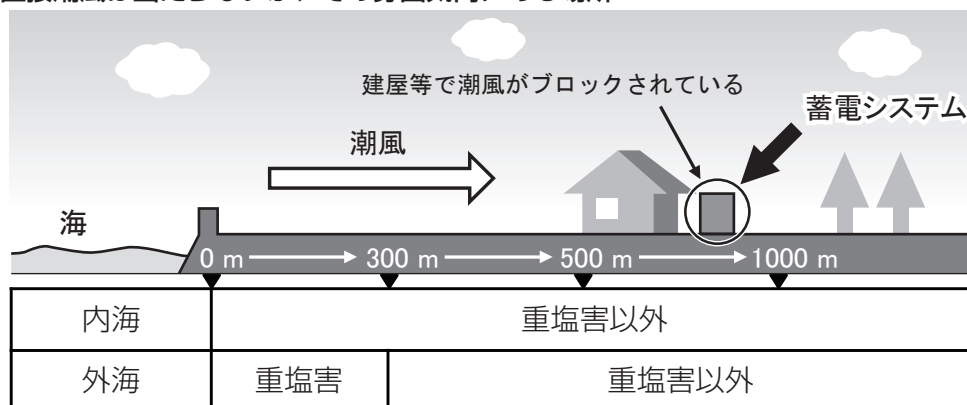
本書は、地域を「沖縄・離島」と「沖縄・離島以外の地域」で区分しています。

- ・離島：本土から離れ、四方を海で囲まれている島 ※内海に浮かぶ島、淡路島は除く。

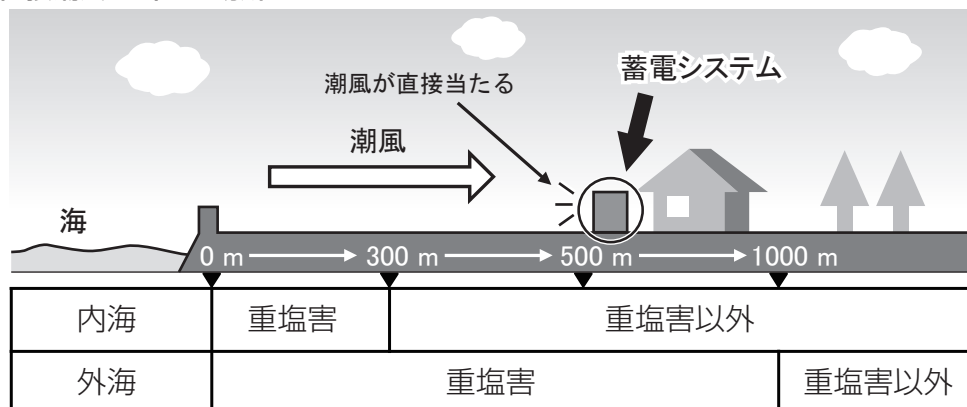
### ■塩害レベルによる区分について

本書は、塩害レベルを下記のように「重塩害」と「重塩害以外」で区分しています。

- ・直接潮風は当たらないが、その雰囲気内にある場所



- ・直接潮風が当たる場所



※内海：瀬戸内海、東京湾、伊勢湾

外海：内海以外の海

### 【型番：ESS-U3S1J】

本製品は耐重塩害仕様であり、本土・沖縄・離島等すべての地域に設置可能です。

※ただし、本製品は、素材や塗装内容を強化していますが、腐食に対して万全ではありません。

このことから、海水のしぶきが直接かかる場所への設置は避けてください。

(台風等で一時的に海水のしぶきがかかる場所は対象外)

安全のために必ずお守りください

[2] 電気工事に関する注意事項

 **警告**

<p>■アース工事を行う (D 種接地工事) アースが不完全な場合、感電の恐れがあります。接地線は、ガス管・水道管・避雷針・電話の接地線に接続しないでください。</p> <p></p>	<p>■ぬれた手で触らない 感電の原因になります。</p> <p></p>
<p>■U、N (O)、W、E、重要負荷出力L、重要負荷出力N、PV 自立入力_L、PV 自立入力_N 端子は規定のトルクで締め付け、固定する 端子のネジが十分に固定されていないと、接触不良により火災の原因となります。</p> <p></p>	<p>■U、N (O)、W、E、重要負荷出力L、重要負荷出力N、PV 自立入力_L、PV 自立入力_N 端子は、ネジが斜めの状態で締め付けない 接触不良により、火災の原因となることがあります。</p> <p></p>
<p>■運転中およびブレーカ「OFF」後 3 分間は、U、N (O)、W、E、重要負荷出力L、重要負荷出力N、PV 自立入力_L、PV 自立入力_N 端子に触れない 感電の恐れがあります。</p> <p></p>	<p>■既築住宅に設置する場合は、必要に応じて屋内配線の変更を行う そのまま使用すると、焼損や発火の原因となることがあります。</p> <p></p>
<p>■分解、改造または修理をしない 感電や傷害の原因となります。</p> <p></p>	<p>■内部を手で触れない 感電の恐れがあります。</p> <p></p>
<p>■時計、指輪またはその他の金属製のものは取り外して作業を行う 感電の恐れがあります。</p> <p></p>	<p>■工具は、手持ち部分が電氣的に絶縁の施されているものを使用する 感電の恐れがあります。</p> <p></p>
<p>■蓄電池の端子の脱着前に、蓄電池へ充電するための電源を切り離す 感電の恐れがあります。</p> <p></p>	<p>■蓄電池の上に、工具または金属製品を置かない 感電の恐れがあります。</p> <p></p>
<p>■革製の手袋および靴を着用する 感電の恐れがあります。</p> <p></p>	<p>■蓄電池は絶対に接地しない 誤って接地した場合は、アースからの電源を取り外してください。接地された蓄電池は、どこに触れても感電する恐れがあります。</p> <p></p>
<p>■長期間「放電」、「待機」に設定しない 蓄電池が充電されないために使用できなくなり、電池交換 (有償) となる可能性があります。</p> <p></p>	<p>■点検コードが出た状態で放置しない 蓄電池が使用できなくなり、電池交換 (有償) となる可能性があります。</p> <p></p>

## 注意

■電気設備技術基準・内線規程に従い、第一種または第二種電気工事士が作業する  
感電の恐れがあります。



■非常時兼用コンセントに使用する電線は、定格が20 A以上のものを使用する  
焼損や発火の原因となることがあります。



■配線には、同梱の部材を使用する

守らないと、端子の焼損や故障の原因となることがあります。同梱されていない部材については、最新の工事説明書で指定された部材を使用してください。



### 設置上の注意

■蓄電システム（ESS-U3S1、ESS-U3S1J）の配線工事は、施工ミスを防止するため、本書内標準接続図および販売会社から指示されている配線図通りに正しく取り付けてください。

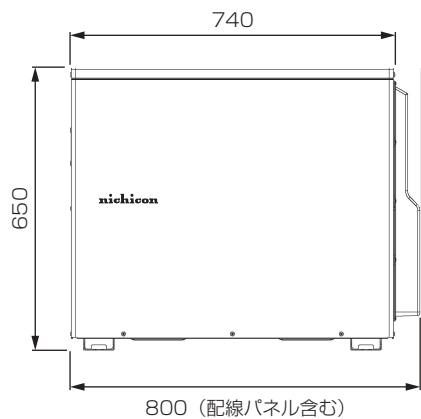
誤った接続を行うと、蓄電システムが正常に動作せず、電力会社との契約違反となる可能性があります。



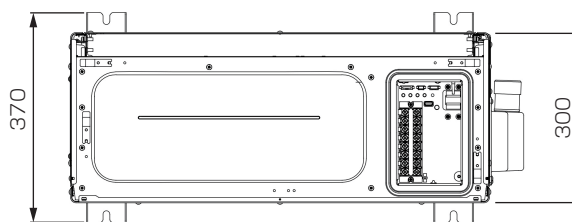
# 外形寸法図

単位：mm

## 蓄電ユニット

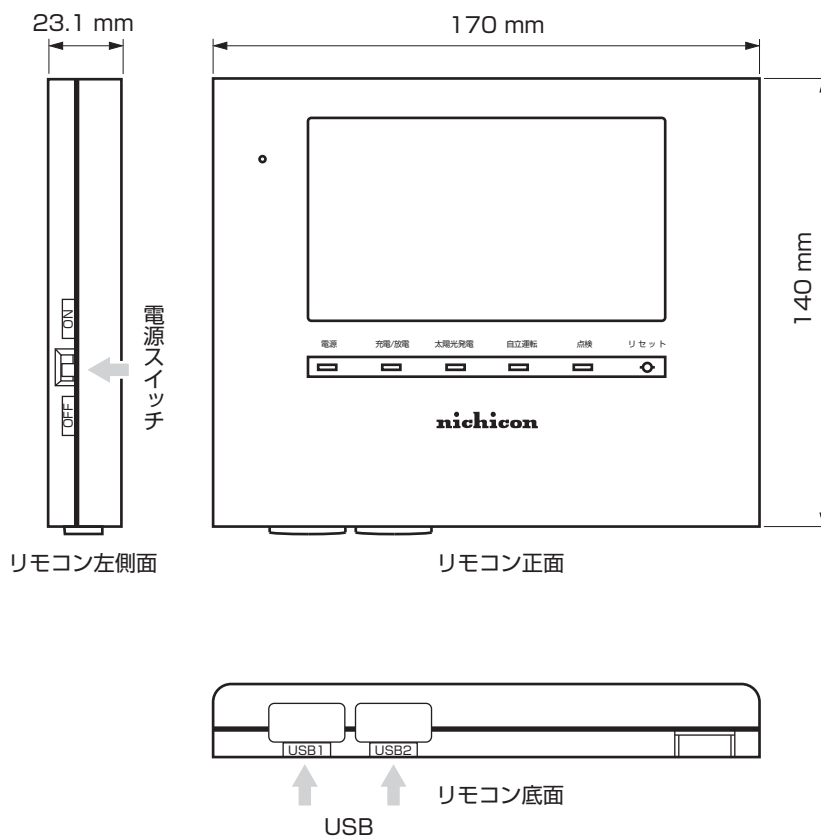


正面



上面 (天板・メンテナンスパネルを開けた状態)

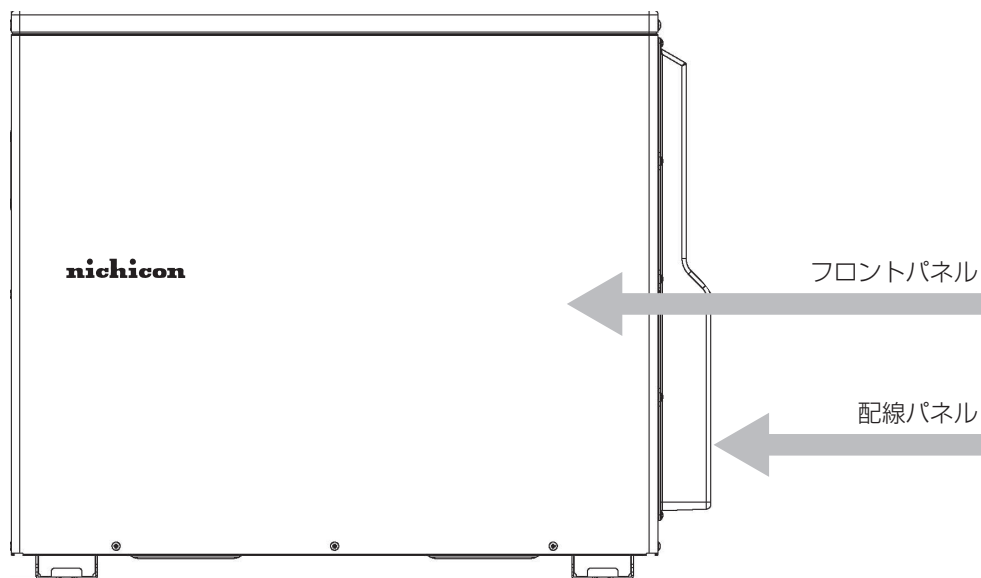
## 室内リモコン



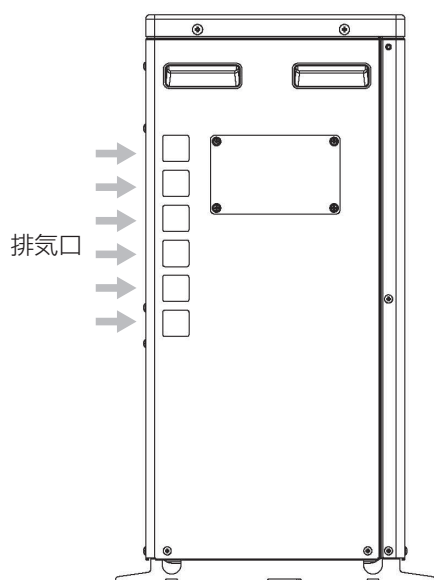


# 各部の名称

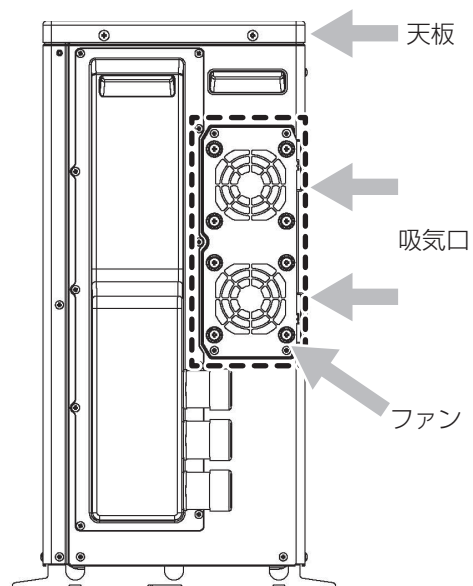
## 蓄電ユニット



正面



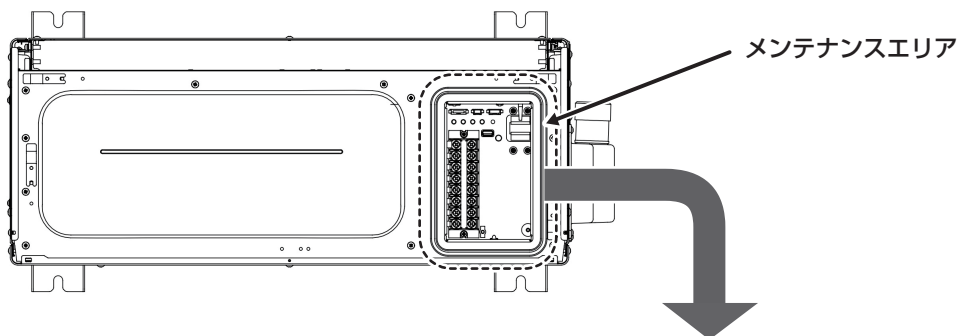
左側面



右側面

## 各部の名称

### 蓄電ユニット (天板・メンテナンスパネルを開けた状態)



<メンテナンスエリアの拡大図>

状態		ランプ	緑	橙	黄	赤
連系運転	待機		○	○		
	放電		○			
	充電			○		
故障						○
自立運転	待機		○	○	○	
	放電		○		○	
	充電			○	○	
停止			○	○	○	○

リモコン

PV\_CT

AC\_CT

サービス用ボタン  
施工時は触れないでください。

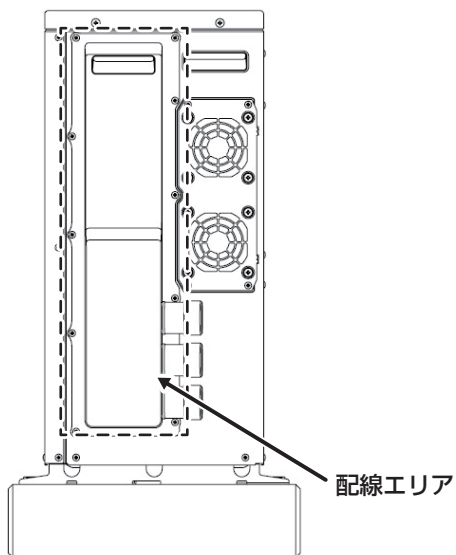
サービス用端子  
使用しないため、保護キャップは外さないでください。

DC プレーカ  
内部の蓄電池を ON/OFF します。

リモコン / CT ケーブル (PF 管 3 へ)

重要負荷出力 / PV 自立入力 / アース (PF 管 2 へ)

系統 (PF 管 1 へ)



配線エリア

# 付属品

部品名	形状	接続先、用途など	員数
丸形端子 (R型)	3.5sq/5.5sq (M5)	系統×3、アース×1、予備×1	5
絶縁キャップ	赤 5.5sq	系統	1
絶縁キャップ	白 5.5sq	系統	1
絶縁キャップ	黒 5.5sq	系統	1
絶縁キャップ	緑 5.5sq	アース	1
丸形端子 (R型)	8sq (M5)	系統×3、予備×1	4
絶縁キャップ	赤 8sq	系統	1
絶縁キャップ	白 8sq	系統	1
絶縁キャップ	黒 8sq	系統	1
丸形端子 (R型)	14sq (M5)	系統×3、予備×1	4
絶縁キャップ	赤 14sq	系統	1
絶縁キャップ	白 14sq	系統	1
絶縁キャップ	黒 14sq	系統	1
丸形端子 (R型)	2sq (M5)	重要負荷出力×2、予備×1	3
絶縁キャップ	黒 2sq	重要負荷出力	1
絶縁キャップ	白 2sq	重要負荷出力	1
丸形端子 (R型)	3.5sq/5.5sq (M5)	重要負荷出力×2、予備×1	3
絶縁キャップ	黒 3.5sq	重要負荷出力	1
絶縁キャップ	白 3.5sq	重要負荷出力	1
丸形端子 (R型)	3.5sq/5.5sq (M5)	PV 自立入力 (3.5sq または 5.5sq) × 2、予備×1	3
絶縁キャップ	黒 3.5sq	PV 自立入力	1
絶縁キャップ	白 3.5sq	PV 自立入力	1
絶縁キャップ	黒 5.5sq	PV 自立入力	1
絶縁キャップ	白 5.5sq	PV 自立入力	1
固定用ネジ	M4 トラスネジ	配線パネル固定用	10
CT センサー	-	逆潮流防止用	2
CT センサー	-	PV 電力監視用	1
室内リモコン	-	-	1
取付アダプタ	-	室内リモコン取付用	1
配線パネル	-	ケーブル収納用 (止水材付き)	1
パテ	-	PF 管開口部充填用	1
分電盤ラベルセット	-	分電盤ラベル、セキュリティラベル	1 式
取扱説明書	-	-	1 式
災害補償制度通知書	-	-	1 式
検査成績書	-	-	1 式
蓄電システム保証書	-	-	1 式

# オプション品

部品名 (名称名)	形状	用途など	員数
リモコンケーブル	20/40 m から選択 20 m…ESS-R22 40 m…ESS-R24	配線長に応じて、どちらか 1 本を手配してください。	1
CT ケーブルセット	20/30/40 m から選択 20 m…ESS-C12 30 m…ESS-C13 40 m…ESS-C14	配線長に応じて、どちらか 1 式を手配してください。 外付け太陽光発電システムを使用する場合は、 ② PV_CT ケーブルを使用します。 (同梱物) ① AC_CT ケーブル…1 ② PV_CT ケーブル…1	1 式
分電盤	G3-A-R	-	1
逆流防止用 CT (内径φ 24、太線対応)	ESS-CT20	付属の CT が取り付けられない場合には、2 個手配してください。	1
日除け板	機種型番から選択 ESS-U3S1…ESS-H7 ESS-U3S1J…ESS-H7J	日射環境に応じて、機種型番の日除け板を手配してください。(86 ページ)	1

# 現地調達品

名称	用途	備考	員数
蓄電システム用ブレーカ	過負荷保護、短絡保護、漏電保護用	「本システムに関する注意事項」(13 ページ)、「標準単線結線図」(14 ページ)、「標準接続図」(15、16 ページ)、「主な周辺機器」(17 ページ)を参照。	1
非常時兼用コンセント ブレーカ			1
非常時兼用コンセント 分岐ブレーカ	1		
MCCB(配線用遮断器)	1		
切替スイッチ	1		
系統ケーブル	適宜		
重要負荷ケーブル	適宜		
PV 自立ケーブル	適宜		
接地線	適宜		
LAN ケーブル	リモコン～ルータ等 間接続用		適宜
はさみ金具	リモコン取り付け用	「室内リモコンの設置、配線」(31 ページ)を参照。	1
皿ネジ			適宜
PF 管	配管用		適宜
簡易基礎	蓄電ユニット据付用	推奨品：機種型番から選択 ESS-U3S1…東洋ベース製 NC400 ESS-U3S1J…東洋ベース製 NC400J (基礎ブロック 2 個、ワッシャ付ボルト・ナット 4 個) ※推奨品はカスタム品となりますので、メーカーから直接 購入してください。 据付用に推奨品以外のワッシャ・ボルト・ナットを使用 する場合は SUS 製を購入してください(鉄製のものは 使用しないでください)。 「簡易基礎と蓄電ユニットの据付」(22 ページ)を参照。	1
補強材	PF 管曲げ半径確保用	推奨品：未来工業製 CDB-28 「蓄電ユニットの設置場所の選定」(20 ページ)を参照。	3

# 本システムに関する注意事項

- 蓄電システムには最大約 30 A の電流が流れます。ご家庭の契約電力は、それ以外の機器に流れる電流値も考慮して決定してください。
- 分電盤の仕様、他機器の設置状態、配線の状態によっては、標準単線結線図どおりに結線できない場合があります。ご不明な点につきましては、販売店にお問い合わせください。
- 引込線取付点 ~ 蓄電ユニット接続点までの配線が CV 2/3.5/5.5/8sq または VV 2/3.5/5.5/8/14sq 相当以下の場合は、下記の対処を行ってください。

① アンペアブレーカによる契約、電流制限機能付スマートメーターによる契約の場合（例 東京電力の従量電灯 B）：

アンペアブレーカ 2 次側に契約電流に応じた（下表参照）**3P3E の MCCB**（配線用遮断器）を設置してください。

（この場合の接続方法は、標準単線結線図、標準接続図の接続パターン①- 1、①- 2 を参照）

※ **3P2E は不可**とします。必ず 3P3E の MCCB を設置してください。

※ 分電盤に MCCB を設置するスペースがないときは、ブレーカボックス等を用いて増設してください。

契約電流	MCCB の定格電流
30 A	30 A
40 A	40 A
50 A	50 A
60 A	60 A

② 主開閉器による契約の場合（例 東京電力の従量電灯 C）：

屋内配線の最上流に契約電力に応じた（下表参照）**3P3E の MCCB**（配線用遮断器）を設置してください。

（この場合の接続方法は、標準単線結線図、標準接続図の接続パターン②を参照してください。）

※ **3P2E は不可**とします。必ず 3P3E の MCCB を設置してください。

※ 既に契約電力に応じた 3P3E の MCCB が設置されている場合は、追加の対処は必要ありません。

契約電力	MCCB の定格電流
6 kVA	30 A
7 kVA	35 A
8 kVA	40 A
9 kVA	45 A
10 kVA	50 A

契約電力	MCCB の定格電流
11 kVA	55 A
12 kVA	60 A
13 kVA	65 A
14 kVA	70 A
15 kVA	75 A

③ 従量電灯 A（関西電力、中国電力、四国電力、沖縄電力）による契約の場合：

屋内配線の最上流に定格電流 30 A の **3P3E の MCCB**（配線用遮断器）を設置してください。

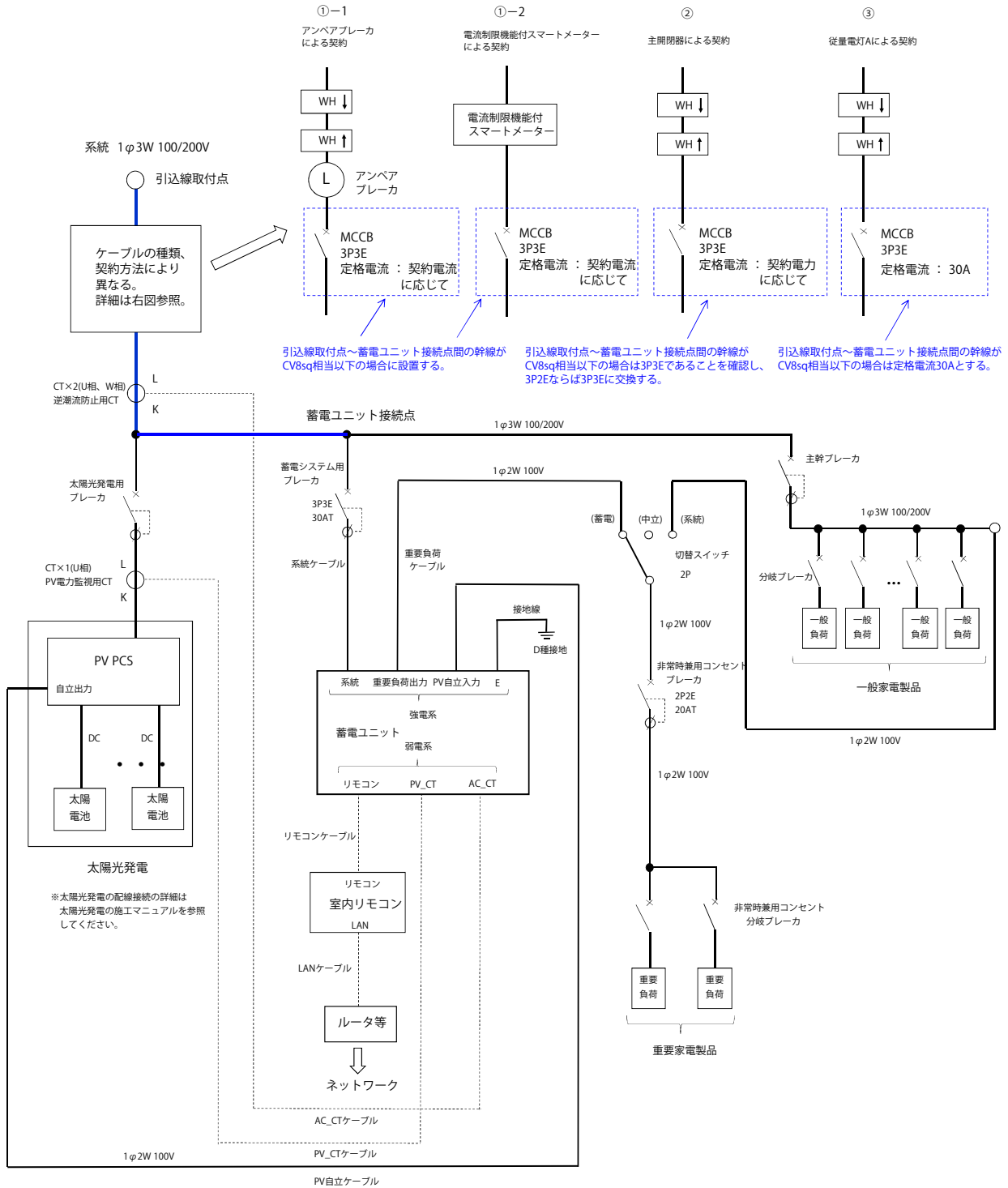
（この場合の接続方法は、標準単線結線図、標準接続図の③を参照）

※ **3P2E は不可**とします。必ず 3P3E の MCCB を設置してください。

※分電盤に MCCB を設置するスペースがないときは、ブレーカボックス等を用いて増設してください。

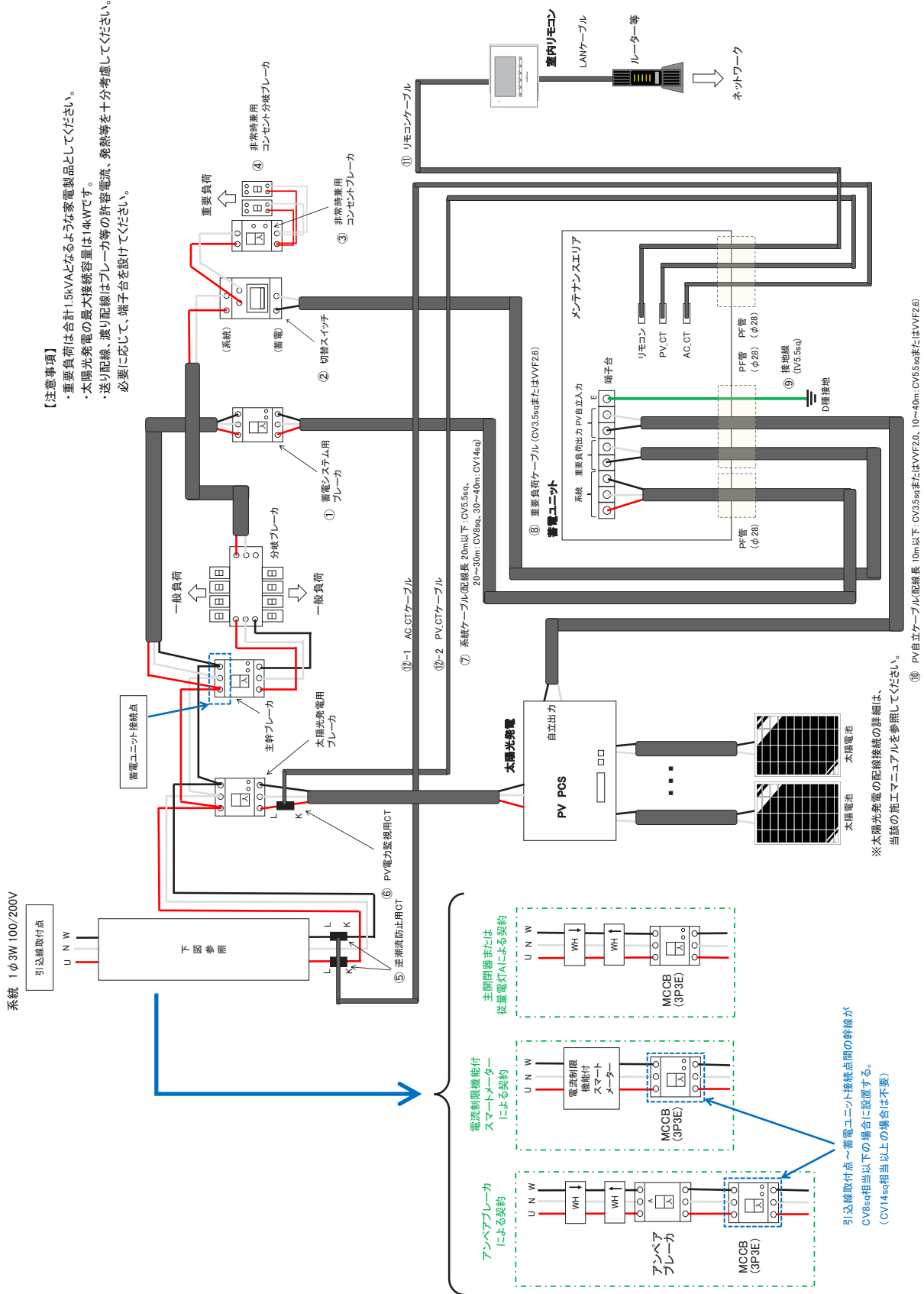
- 重要負荷出力端子に接続できる負荷は、最大 1.5 kVA になります。それ以上の負荷を接続すると、蓄電システムが停止したり、非常時兼用コンセントブレーカがトリップする恐れがありますのでご注意ください。

# 標準単線結線図



# 標準接続図

## [1] オプション分電盤を使用しない場合

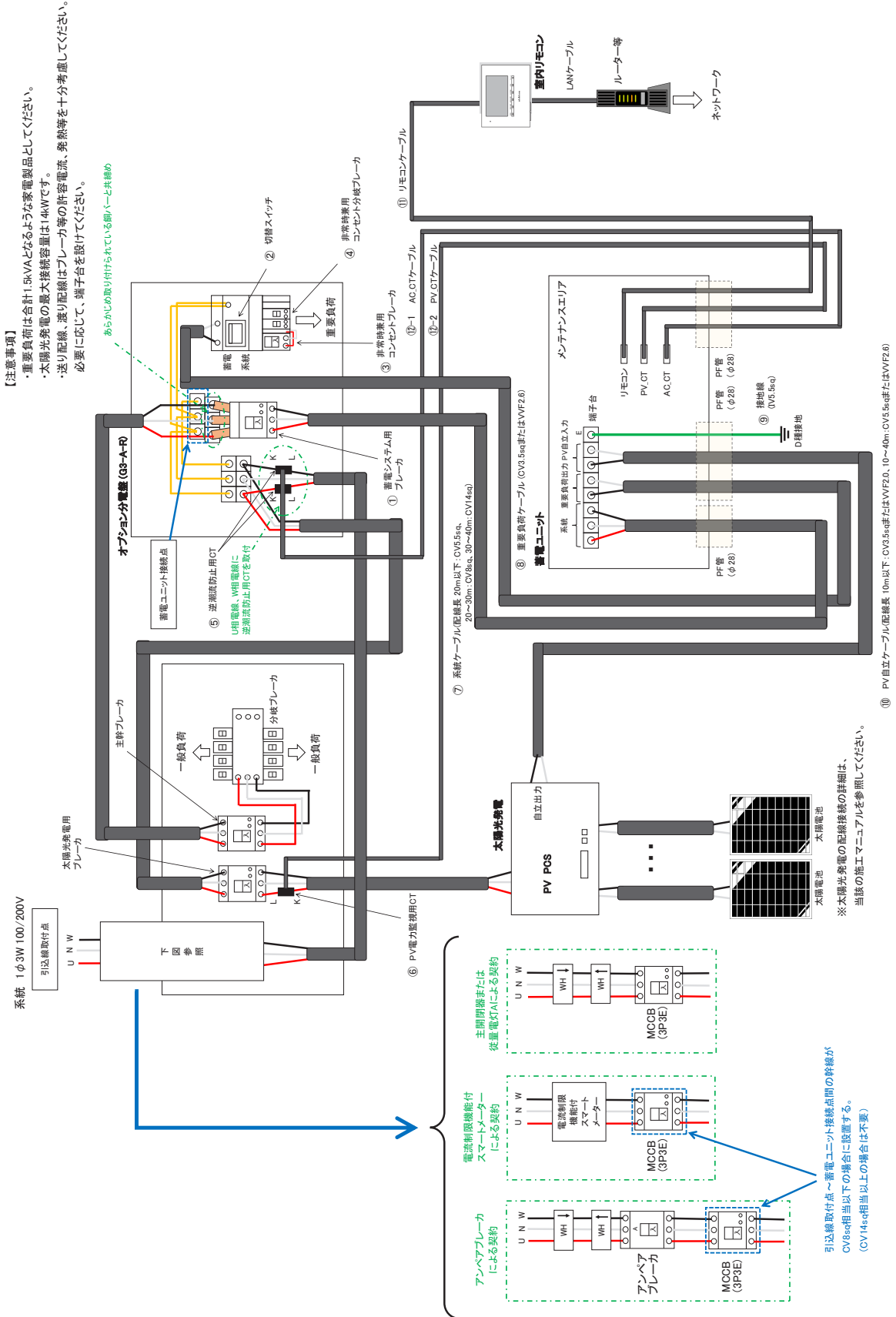


**【注意事項】**

- ・重要負荷は合計1.5kVAとなるような家電製品としてください。
- ・太陽光発電の最大接続容量は14kWです。
- ・送り配線、配線径はブレーカ等の許容電流、発熱等を十分考慮してください。必要に応じて、端子台を設けてください。

※太陽光発電の配線接続の詳細は、当該の施工マニュアルを参照してください。

## [2] オプション分電盤を使用する場合





# 主な周辺機器

- 蓄電システムの主な周辺機器については、下表の仕様を満足する製品を使用してください。
- 幹線のケーブル、電線は契約電力、家庭負荷の大きさに応じて決定してください。

No.	部品	員数	調達方法	仕様	備考
<b>【オプション分電盤を使用しない場合】</b>					
①	蓄電システム用ブレーカ	1	現地手配	OC付漏電遮断器 (ELCB) 逆接続可能型 3P3E 単3中性線欠相保護機能なし AT (定格電流) : 30 A	
②	切替スイッチ	1	現地手配	2P 定格電流 : 20 A 以上 (日東工業 DS32 2P 30 A 等)	
③	非常時兼用コンセントブレーカ	1	現地手配	OC付漏電遮断器 (ELCB) 2P2E または 2P1E AT (定格電流) : 20 A	
④	非常時兼用コンセント分岐ブレーカ	適宜	現地手配	ご家庭の重要負荷の分岐方法に応じて選定してください。	
<b>【オプション分電盤を使用する場合】</b>					
①~④	オプション分電盤	1	オプション	G3-A-R	
⑤	逆潮流防止用 CT	2	同梱物 (オプション)	内径φ 16 : CTF-16 (内径φ 24 : ESS-CT20)	太い電線に取付ける場合は、オプション品をご手配ください。
⑥	PV 電力監視用 CT	1	同梱物	内径φ 16 : CTF-16	太陽光発電システムを設置する場合にご使用ください。
⑦	系統ケーブル	適宜	現地手配	分電盤~蓄電ユニットの配線長 ~ 20 m : CV5.5sq × 3C 20 m ~ 30 m : CV8sq × 3C 30 m ~ 40 m : CV14sq × 3C	
⑧	重要負荷ケーブル	適宜	現地手配	分電盤~蓄電ユニットの配線長 CV3.5sq × 2C または VVF2.6 × 2C	
⑨	接地線	適宜	現地手配	IV5.5sq (緑)	
⑩	PV 自立ケーブル	適宜	現地手配	~ 10 m : CV3.5sq × 2C または VVF2.0 × 2C 10 m ~ 40 m : CV5.5sq × 2C または VVF2.6 × 2C	
⑪	リモコンケーブル	20 m 40 m	オプション	20 m...ESS-R22 40 m...ESS-R24	
⑫	CT ケーブルセット	20 m 30 m 40 m	オプション	20 m...ESS-C12 30 m...ESS-C13 40 m...ESS-C14	(同梱物) ⑫-1 AC_CT ケーブル ...1 ⑫-2 PV_CT ケーブル ...1

## 主な周辺機器

No.	部品	員数	調達方法	仕様	備考
—	アンペアブレーカ	1	既存設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約電流に応じて設置してください。</li> <li>アンペアブレーカがない場合は、配線用遮断器（MCCB）を設置してください。</li> <li>アンペアブレーカの2次側に3P3EのMCCBを設置する場合があります。詳細は13～16ページを参照してください。</li> <li>システムとの接続位置、方法は最寄りの電力会社営業所へご確認ください。</li> </ul>	
—	太陽光発電用ブレーカ	1	既存設備	実際に流れる電流や本製品以外の太陽光発電の仕様に応じて選定してください。必要に応じて送り端子台を設けてください。	
—	主幹ブレーカ	1	既存設備	ご家庭の一般負荷に応じて選定してください。	
—	分岐ブレーカ	適宜	既存設備	ご家庭の一般負荷に応じて選定してください。	
—	LAN ケーブル	適宜	既存設備	CAT5e以上の非シールドまたはシールドLANケーブル	
—	はさみ金具	1	現地手配	取付けアダプタ固定用	
—	皿ネジ	適宜	現地手配	取付けアダプタ固定用	

# 工事の流れ

「設置完了報告書」に点検結果を記入しながら、作業を進めてください。

1	蓄電ユニットの設置場所の選定	20 ページ
2	蓄電ユニットの開梱	21 ページ
3	簡易基礎と蓄電ユニットの据付	22 ページ
4	蓄電ユニットの配線	23 ページ
5	室内リモコンの設置、配線	31 ページ
6	CT の設置、配線	33 ページ
7	試運転 / 試験	36 ページ
8	蓄電ユニットの最終作業	61 ページ
9	蓄電システムの最終確認	62 ページ
10	お客様への動作説明	62 ページ
11	施工完了後	62 ページ



「設置完了報告書」に必要事項の記入のうえ、販売会社まで返送してください。

# 蓄電ユニットの設置場所の選定

ユニット背面のスペースは、100 mm 以上確保してください。

ただし、ユニット背面側に PF 管を通す場合には、200 mm 以上のスペースを確保してください。

ユニット前面および側面の空間は、下図を参考にスペースを確保してください。

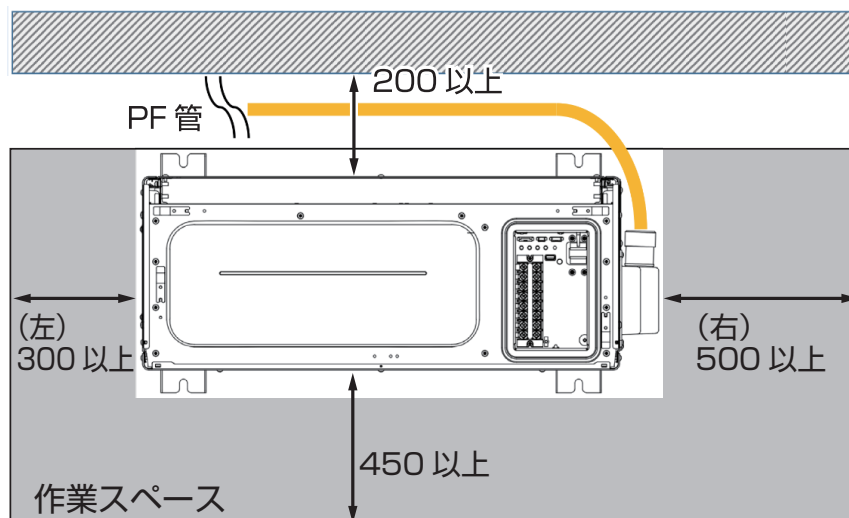
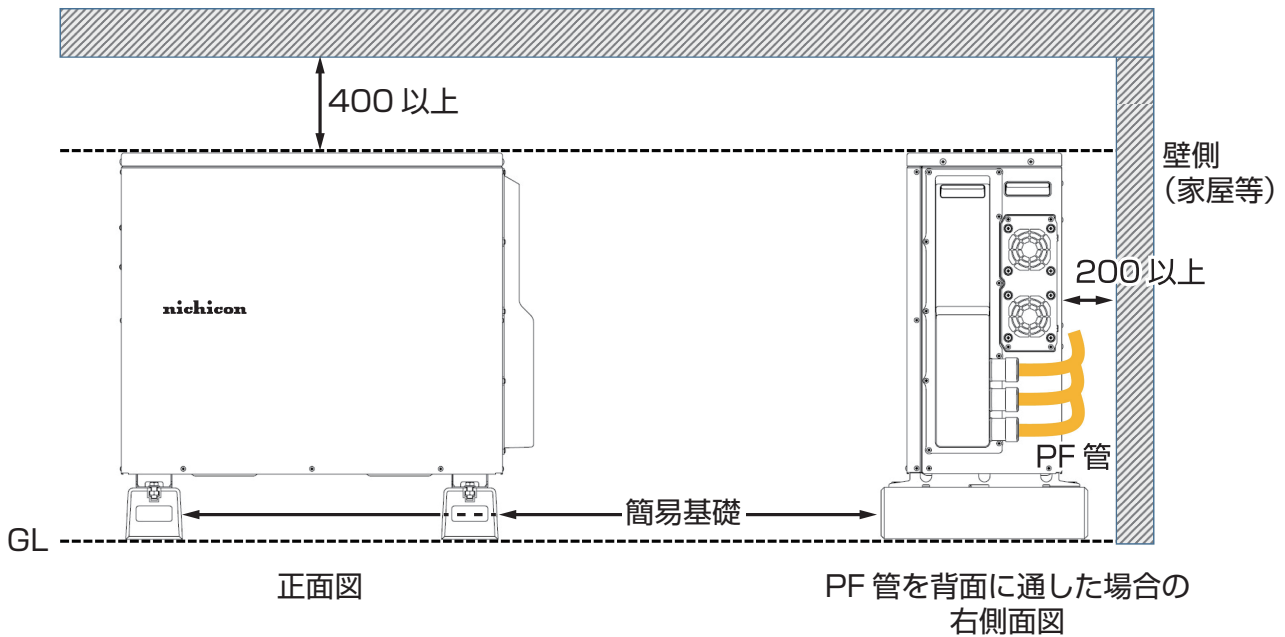
ユニット上部のスペースは、400 mm 以上確保してください。

PF 管を蓄電ユニットの背面に通す場合で、曲げ半径6D 以上を確保できないおそれがあるときは、補強材を使用してください。

補強材として" 未来工業製：CDB-28"（現地調達品）の使用を推奨します。

## 設置スペース図

単位:mm



- 日除け板の設置条件を確認してください。日射環境に応じて日除け板を取り付けてください。（「日除け板」86 ページ参照）

# 蓄電ユニットの開梱

蓄電システムの開梱は、下図に基づいて順番に取り出してください。

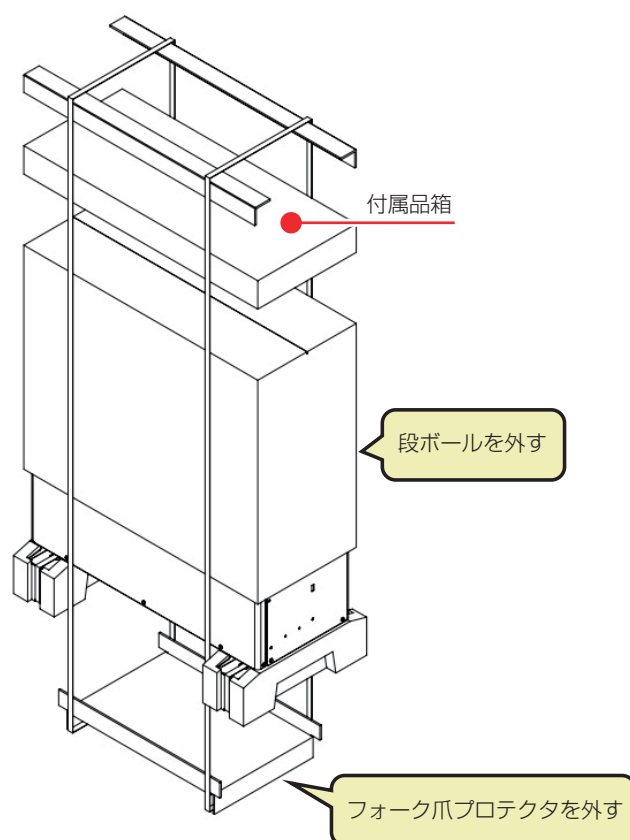
## 1 PPバンドを取り外す

底面にあるフォーク爪プロテクタも、同時に外れます。

## 2 付属品箱を取り外す

## 3 段ボールとPEシートを取り外す

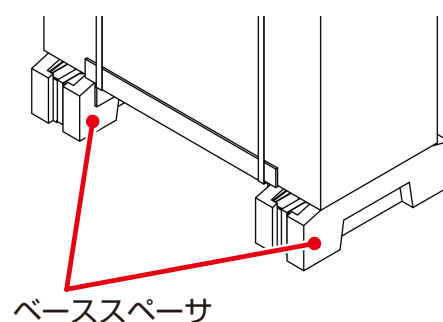
## 4 手順2の付属品箱を開梱し、キズの有無及び過不足を確認する (付属品一覧は「付属品」(11 ページ) 参照)



## ● ベーススペーサの取り外し

製品の脚周りの損傷を防止するため、ベース据付け直前に取り外してください。

(「簡易基礎と蓄電ユニットの据付」22 ページ参照)



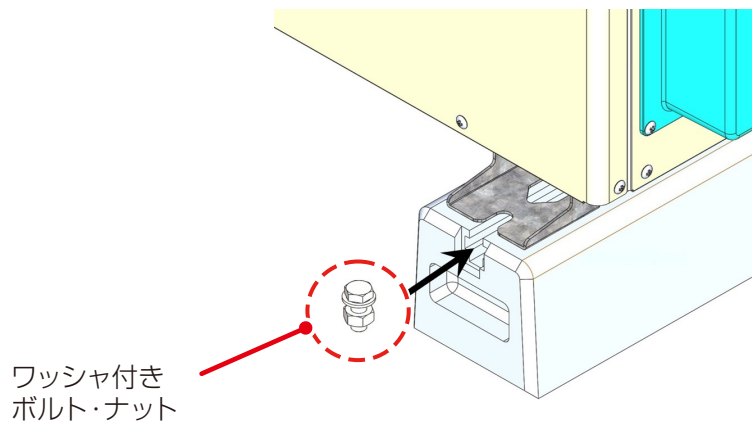
# 簡易基礎と蓄電ユニットの据付

## 装置の外観確認

蓄電ユニット外部に、腐食、汚れ、変形等の不具合がないことを確認してください。➡点検

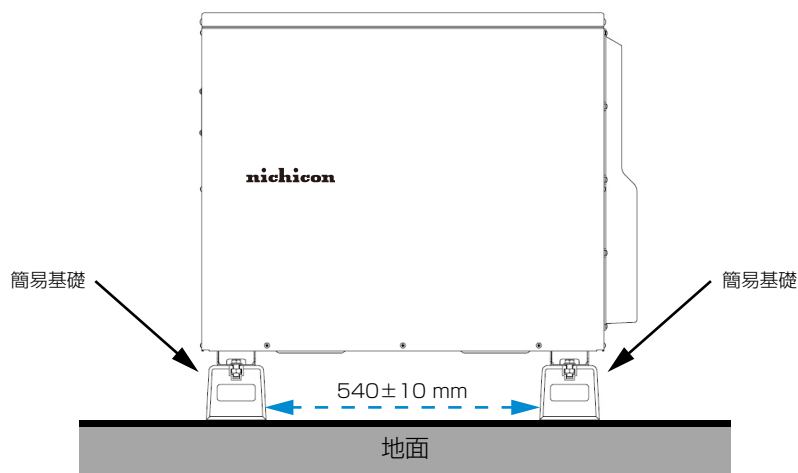
下記の手順に従って、簡易基礎と蓄電ユニットを据え付けてください。

- ① 簡易基礎を総重量（機器重量＋基礎重量）に十分に耐える水平な地面に設置します。  
（必要であればローラーによる締固めを行ってください。）  
簡易基礎として東洋ベース製（12 ページ参照）を推奨します。
- ② 蓄電ユニットをベースの中心と簡易基礎の中心が一致するように簡易基礎の上に据え付けます。  
ベーススペーサは、蓄電ユニットを持ち上げた際に取り外します。（PP バンドをカットする）
- ③ 推奨の簡易基礎を使用する場合は、付属のワッシャ付きボルト・ナットを用いて、蓄電ユニットのベースと簡易基礎を4ヶ所で固定します。  
推奨の簡易基礎ではなく類似品を使用する場合は、ワッシャ・ボルト・ナットはSUS製のものを使用してください。  
（鉄製のものを使用した場合は、電蝕による錆が発生します。）



- ④ 下図<最終イメージ>のように据え付けられていることを確認します。

<最終設置イメージ図>



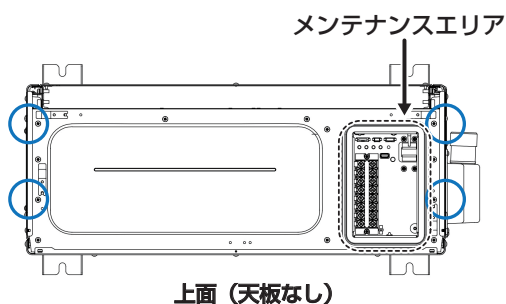
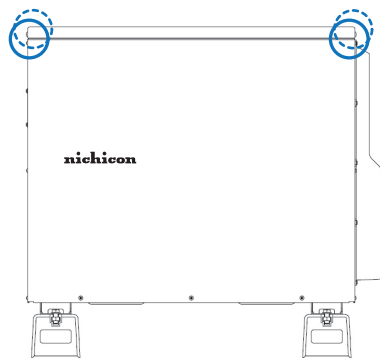
## 装置の固定確認

蓄電システムと簡易基礎がしっかりボルト締めされていることを確認してください。➡点検

# 蓄電ユニットの配線

## [1] 天板の取り外し

天板を固定しているネジ（4箇所）を外して、天板を外します。  
メンテナンスエリアに水や粉塵等が入らないようにしてください。  
天板を外した状態でその場を長時間離れないでください。  
天候急変時には風雨の侵入を防ぐため、天板を閉じてください。



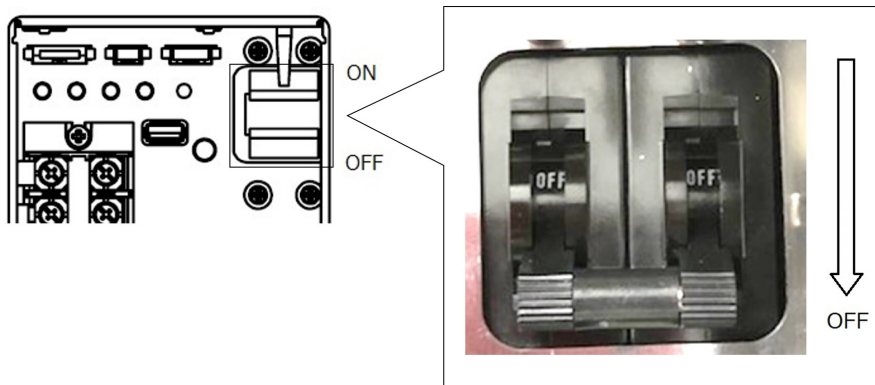
### ○ネジ取り外し箇所（4箇所）

メンテナンスエリアが現れます。

取り外したネジ（プラスチックワッシャ付き）は、大切に保管しておいてください。

## [2] DC ブレーカの確認

メンテナンスエリア内の DC ブレーカが、「OFF」であることを確認してください。



## 蓄電ユニットの配線

### [3] 電力ケーブル、通信ケーブルの配線エリアへの引き込み

下記の手順に従って、配線エリア内に電力ケーブル、通信ケーブルを引き込んでください。

- ① 付属品箱から配線パネルを取り出します。
  - ② PF管コネクタに(あらかじめ近くまで配管してある)PF管を接続し、電力ケーブル、通信ケーブルを通線します。
  - ③ 電力ケーブル、通信ケーブルを配線エリア内に引き込みます。
- 電力ケーブルと通信ケーブルをPF管1 → PF管2 → PF管3の順に引き込んでください。  
(この順番でない場合、14sqの系統ケーブル使用時に特に引き込みにくいことがあります。)

<通線する順番>

PF管1: 系統ケーブル

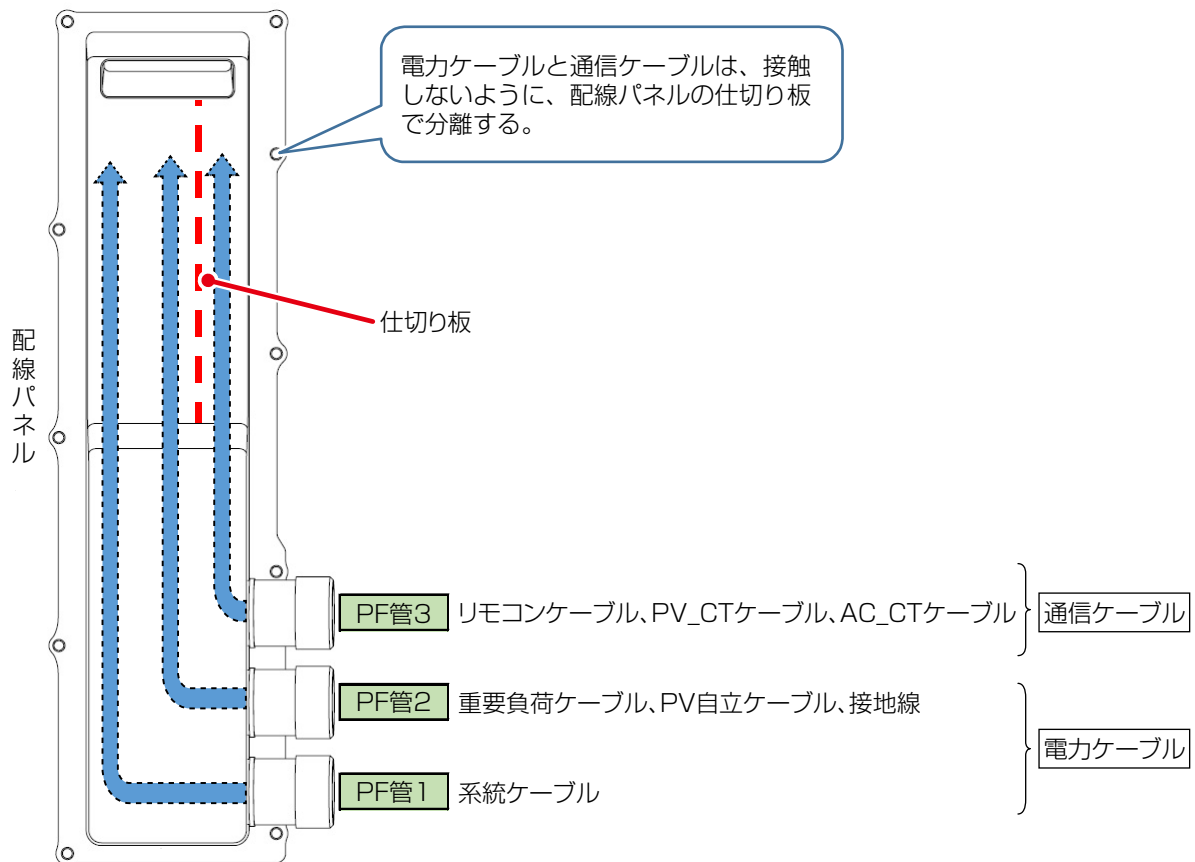


PF管2: 重要負荷ケーブル、PV自立ケーブル、接地線



PF管3: リモコンケーブル、PV\_CTケーブル、AC\_CTケーブル

- ケーブルは途中で交差させず、並行状態で引き込んでください。

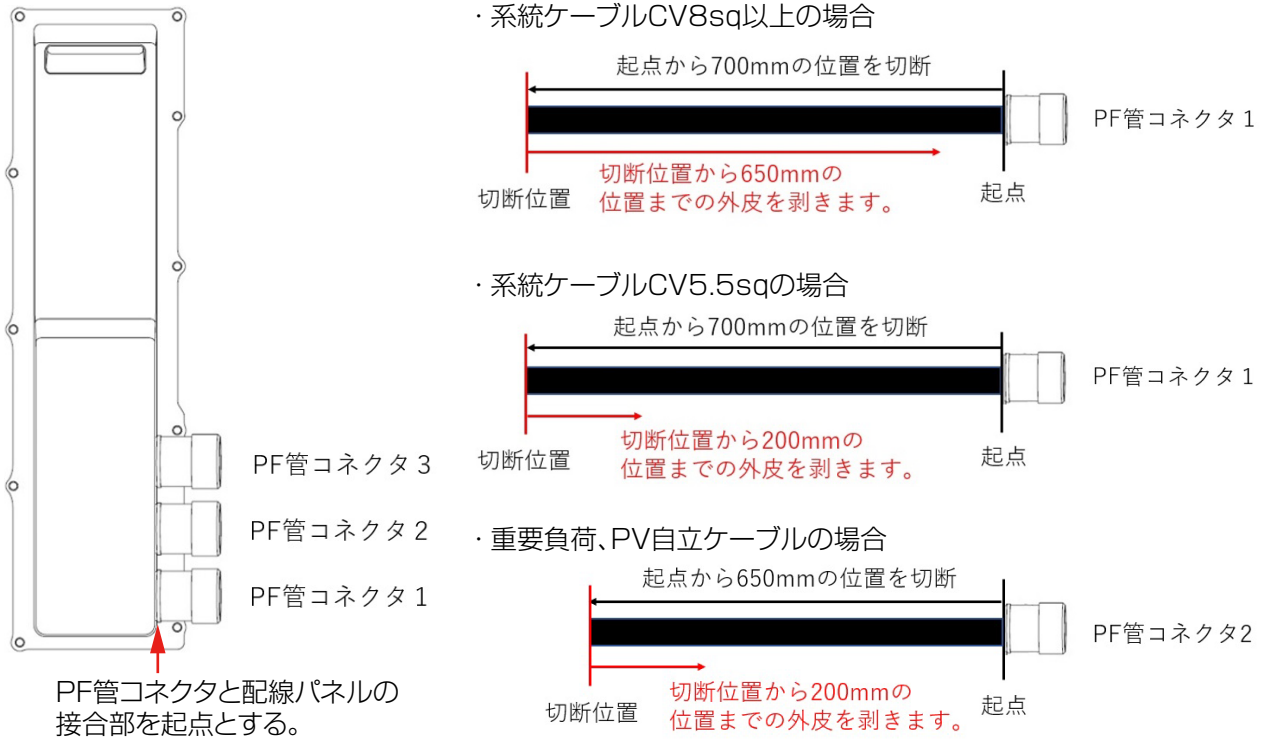




## [4] 電力ケーブルの切断、外皮の剥ぎ取り

メンテナンスエリア内の配線作業をしやすくするために、下図に従って、あらかじめ電力ケーブルを切断し、外皮を剥いておいてください。

(この作業を行わないと、後の作業がしにくくなる可能性があります。)

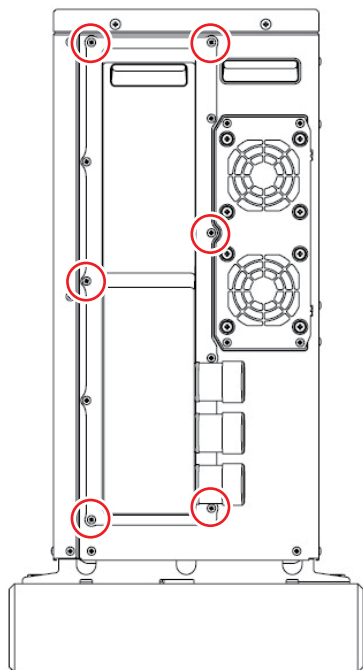


## 蓄電ユニットの配線

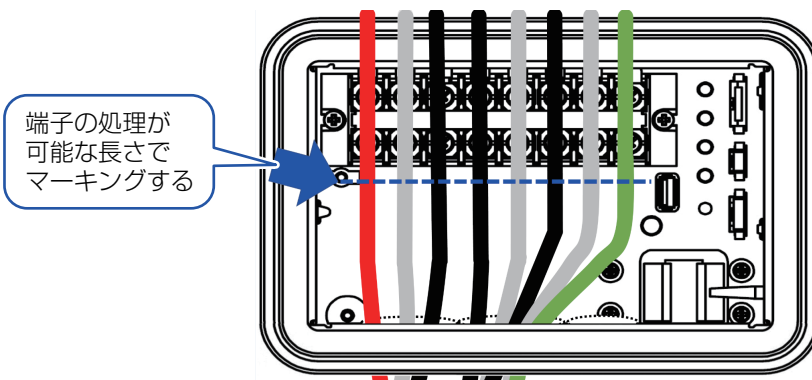
### [5] 電力ケーブルのメンテナンスエリアへの仮引き込み

メンテナンスエリアに電力ケーブルを引き込み、配線パネルを仮固定し、以下の配置にしてください。系統、重要負荷出力、PV 自立入力、接地線が端子台に接続できるよう適した長さの位置にマーキングを行います。

#### ○ネジの仮固定箇所（6箇所）



電力ケーブルのマーキング位置



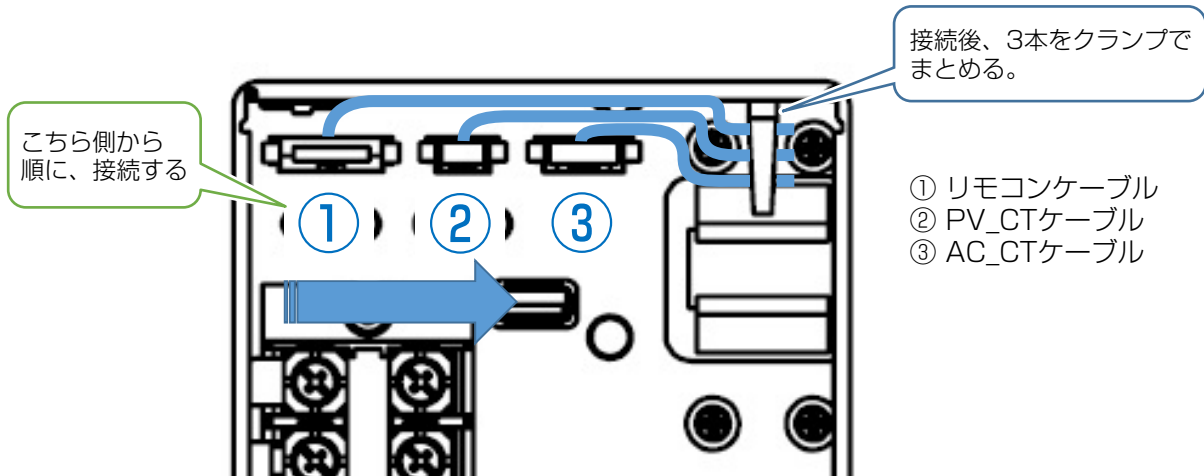
### [6] 端子処理および電力ケーブル、通信ケーブルの本引き込み

下記の手順に従って、電力ケーブルの端子処理および電力ケーブル、通信ケーブルの本引き込みを行ってください。

- ① 配線パネルを仮固定しているネジを取り外します。
- ② 仮引き込みしている電力ケーブルをメンテナンスエリアから引き抜きます。
- ③ 広い作業スペースで電力ケーブルのマーキング位置での切断、端子の処理を行います。
- ④ 電力ケーブル、通信ケーブルを再びメンテナンスエリアに引き込んで、先端を端子位置に合わせます。引込む際は、電力ケーブル→通信ケーブルの順に引込んでください。  
(この順番でない場合、電力ケーブルが引込みにくいことがあります。)

## [7] 通信ケーブルの接続

PF 管 3 から通線したリモコンケーブル、PV\_CT ケーブル、AC\_CT ケーブルを接続してください。接続する順番は、リモコンケーブル→PV\_CT ケーブル→AC\_CT ケーブルの順に接続してください（この順番でない場合、接続しにくいことがあります）。接続後、3本をクランプでまとめてください。

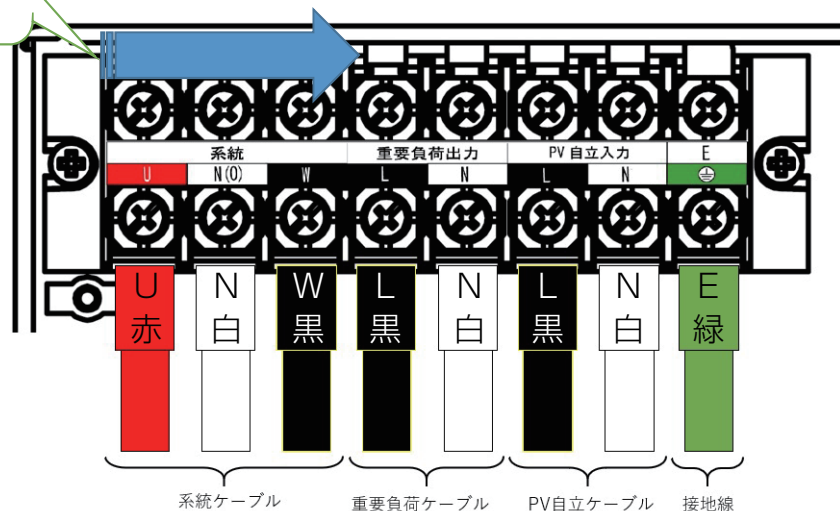


## [8] 電力ケーブルの接続

[6] の作業で端子処理を施した電力ケーブルを端子台に接続してください。

※端子台の締め付けトルク：2.0～2.5 N・m

こちら側から順に、接続する。  
この順番でない場合、接続しにくいことがあります。

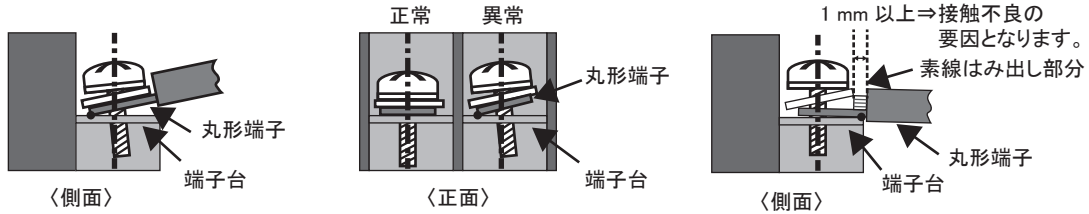


- 重要負荷出力  $_L$  が非接地、重要負荷出力  $_N$  が接地側となります。
- 太陽光パワーコンディショナの自立端子と蓄電パワーコンディショナのPV自立入力端子間を接続します。太陽光パワーコンディショナの自立出力が端子またはコンセントである場合、その形状に対応した電気設備技術基準 / 内線規程に従って接続してください。  
※特に重要負荷ケーブル、PV自立ケーブルは誤接続をしやすいため、注意して接続してください。

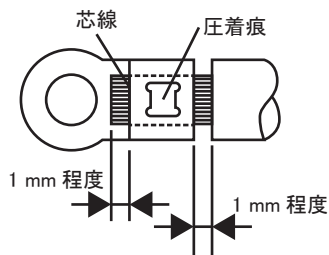
## 蓄電ユニットの配線

### 丸形端子

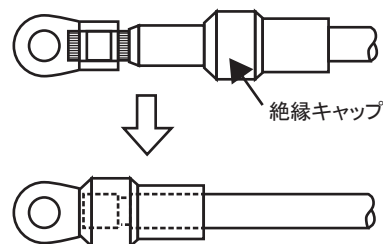
- 端子盤のネジ締め付けトルクは、 $2.0 \sim 2.5 \text{ N} \cdot \text{m}$  にてお願いします。
- 付属の丸形端子を使用して、緩みのないように配線してください。次のポイントを確認してください。
  - ネジが斜めに入って、締め付けが不完全になっていないか？



— 丸形端子は、下図に従って、電線に圧着してください。



配線ケーブル圧着後の点検



絶縁キャップの取り付け

(注) 配線加工には、付属の丸形端子を使用してください。

丸形端子外形が、端子台幅（10 mm）以下のものを選定してください。誤って大きなものを使用されると隣接端子との仕切りの壁を壊してしまう恐れがあるため、ご注意ください。

## [9] 絶縁抵抗の測定

### 注意事項

絶縁抵抗測定を行う時は、以下の注意事項を守って作業を行ってください。

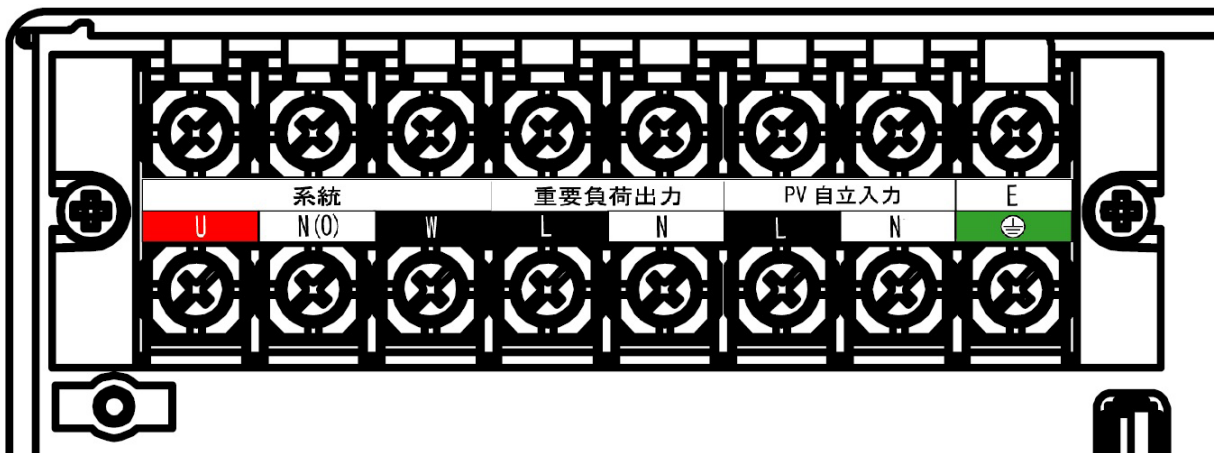
- 作業を行う前に必ず次の事項を確認してください。
  - (1) 主幹ブレーカ、蓄電システム用ブレーカ、非常時兼用コンセント用ブレーカ、DC ブレーカ、太陽光発電用ブレーカがすべて「OFF」であること  
(「[2] DC ブレーカの確認」23 ページ参照、「標準接続図」15 ページ参照を参照ください。)
  - (2) 端子台の各端子間に電圧がないことを、テスターにて確認してください。
- 端子台を素手で触らないでください。
- アースプローブ（黒）;E 端子、ラインプローブ（赤）;E 端子以外として作業してください。
- 値が安定したところを測定してください。
- 1 極ずつ測定してください。



### 絶縁抵抗測定（測定レンジは DC500 V）

各端子（U、N、(O)、W、重要負荷出力\_L、重要負荷出力\_N、PV 自立入力\_L、PV 自立入力\_N）と E 端子の間を、絶縁抵抗計を用いて絶縁抵抗測定を行ってください。

判定条件：DC500 V レンジで 1 M Ω 以上



端子台部

(1 M Ω 以上) → 点検

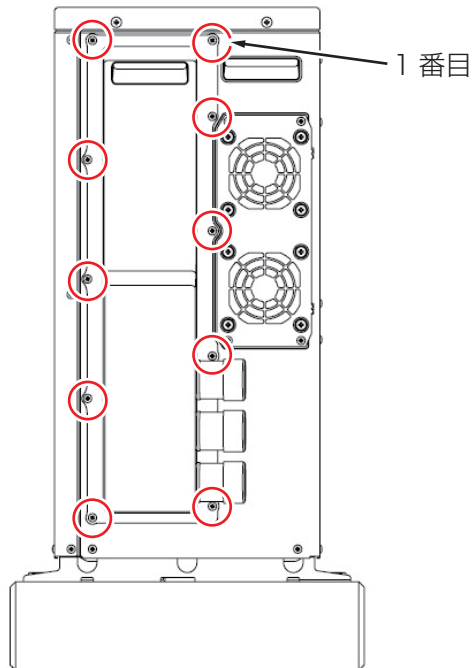
## 蓄電ユニットの配線

### [10] 配線パネルの本固定

配線パネルを付属のネジで取り付けてください。

下図の 1 番目の丸穴からネジで固定をしてください。(2 番目以降は指定なし)  
(締め付けトルク  $1.0 \pm 0.1 \text{ N} \cdot \text{m}$ )

○ ネジの本固定箇所 (10 箇所)



# 室内リモコンの準備、確認

- 室内リモコンの周囲は、換気、操作性が保てる場所に設置してください。
- 事前に、リモコンケーブル、HEMS 用ケーブルの屋外から屋内への引き込みを行ってください。  
ネットワークを利用する際には、ネットワークケーブルもあわせて行ってください。
- 取付アダプタを使用する場合は、はさみ金具と M4 のネジを準備してください。

# 室内リモコンの設置、配線

## ■ 取付アダプタを使用する場合：

- (1) 室内リモコンを取り付ける場所を決めます。はさみ金具（例：らくワーク）の寸法に合わせて決めてください（図 1）。
- (2) はさみ金具の取り付け位置に合わせて、リモコンケーブルを通すための穴を壁に開けます（図 2）。開口部はビスの間隔より若干広めに開けてください。

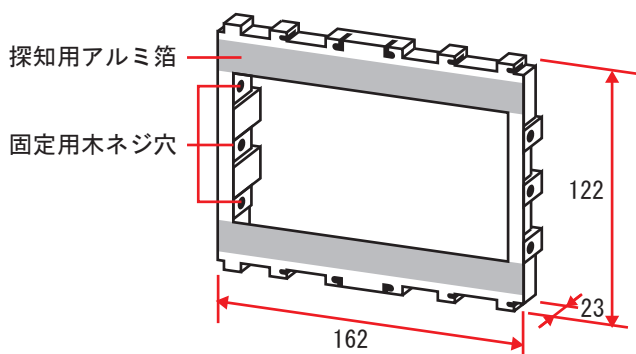


図 1 はさみ金具（例：らくワーク）

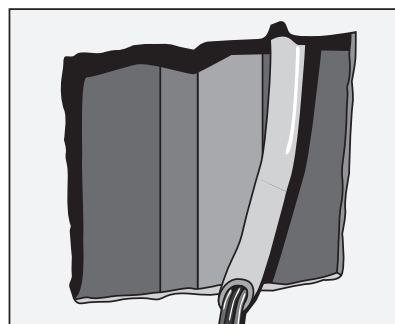


図 2 壁に穴をあける

- (3) リモコンケーブルを取り出し、はさみ金具を使って、取付アダプタを壁に固定します（図 3）。

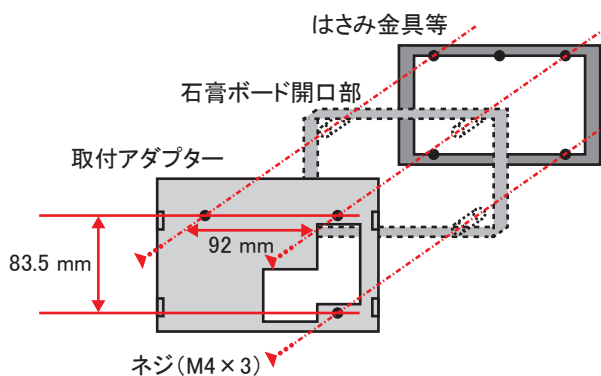


図 3

※ はさみ金具と M4 のネジ 3 つは同梱されていません。

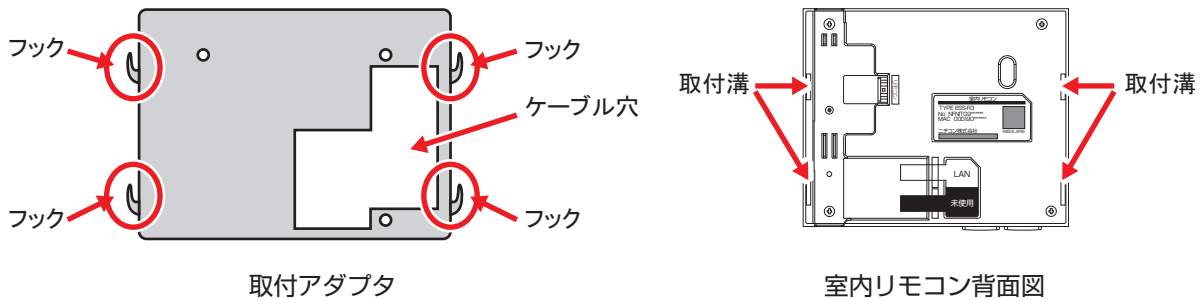
- (4) リモコンケーブルを室内リモコン背面の差込口に接続します。

室内リモコンケーブルの接続は、「[3] 電力ケーブル、通信ケーブルの配線エリアへの引き込み」24 ページ参照を参照してください。

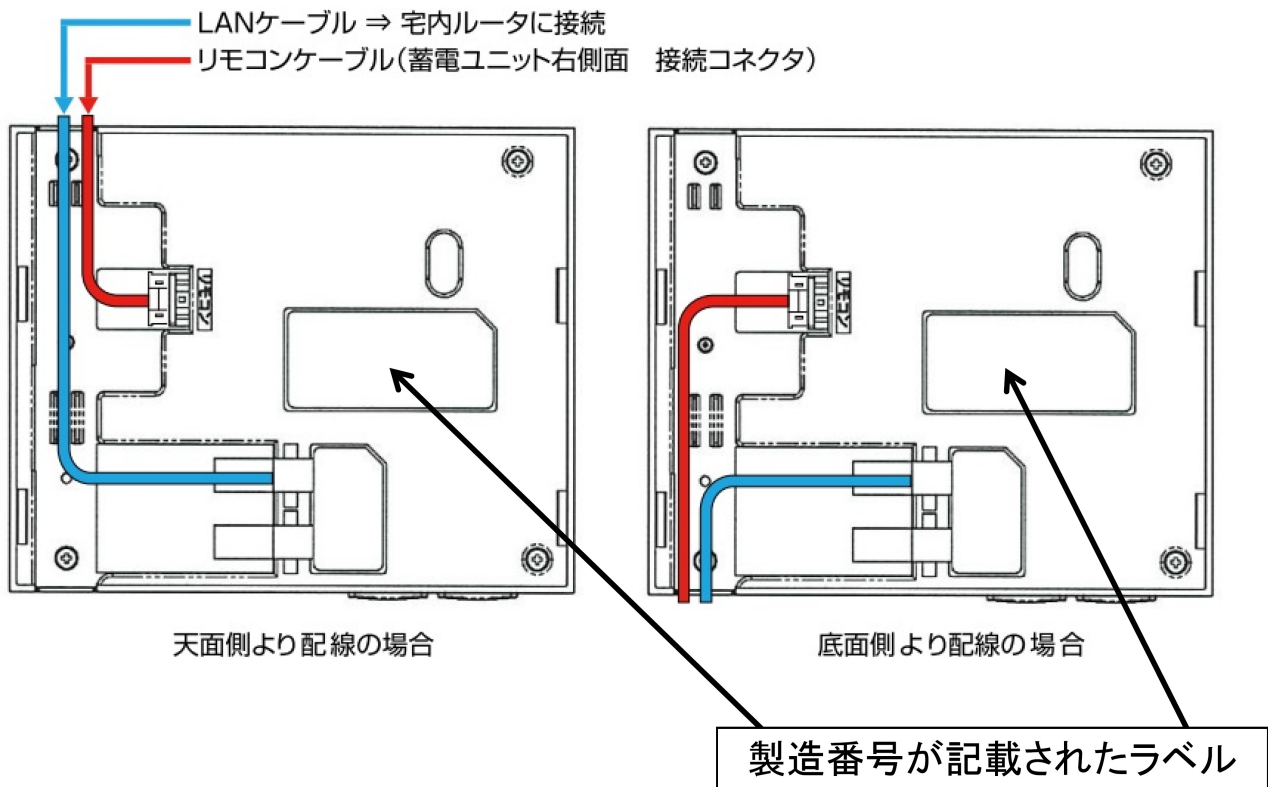
- (5) LAN ケーブルを室内リモコン背面の LAN コネクタに差し込みます。有線 LAN と接続してください。（LAN ケーブルはカテゴリ 5e 以上の非シールドまたはシールド LAN ケーブルを使用してください。）

## 室内リモコンの設置、配線

(6) 室内リモコン背面の取り付け溝に、取付アダプタのフックを引っ掛けて、室内リモコンを壁に取り付けます。



● 壁に穴を開けず、リモコンの天面側もしくは底面側からケーブルを配線する際は、以下のように配線してください。



### 室内リモコンの製造番号確認

室内リモコン背面に表記されている製造番号を設置完了報告書に記載してください。➡ 点検  
※製造番号は上図の製造番号が記載されたラベルを参照してください。

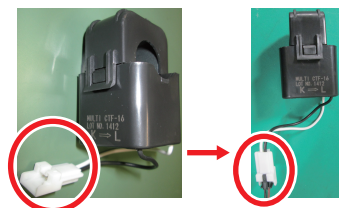


# CT の設置、配線

- 電流センサー（CT）は高所から落下させないように取り扱いには十分に注意してください。また、落下させた CT は使用しないでください。
- CT の取り付け位置、向きを間違えると、点検コード BE105、BE518、BE519、BE520 が表示されます。また、蓄電システムが正常に動作せず、電力会社との契約違反となる可能性があります。下記の注意点を守って取り付けを行ってください。
  - 蓄電ユニットの逆潮流防止用 CT を太陽光発電システムブレーカより上流につけること
  - U相とW相の接続を間違えないこと
  - CTの向きを間違えないこと（「K ⇒ L」の矢印の先が系統側を向く）

## 1 CT ケーブルと CT を接続します。（逆潮流防止用 CT に 2 個、PV 電力監視用 CT に 1 個使用します。）

添付されている CT を、右の赤丸部のように接続してください。  
コネクタのロック部にカチッと音がするまで押し込んでください。



## 2 PV 電力監視用 CT の取り付け（1 個）

「標準単線結線図」14 ページ参照を参照して、PV 電力監視用 CT の位置の U 相に CT を取り付けます。CT に矢印（K ⇒ L）が表記されているので、矢印の先を系統側に向けてください。

「標準接続図」15 ページ参照の接続例も参考にして CT の位置を確認してください。  
（PV 電力監視用 CT - 蓄電システム間の接続ケーブルは、茶と黒のケーブルになります。）



## 3 逆潮流防止 CT の取り付け（2 個）

「標準単線結線図」14 ページ参照の「逆潮流防止用 CT」の位置の U 相と W 相に正しく CT が取り付けられていることを確認しておいてください。PV 電力監視用 CT と同様に CT に矢印（K ⇒ L）が表記されているので、矢印の先が系統側に向いていることを確認しておいてください。

位置や向きが異なるとエラーが発生し、システムが停止します。

U 相 CT ケーブル：赤と黒のケーブル

W 相 CT ケーブル：茶と黒のケーブル

## 4 CT にセキュリティラベルを貼る

セキュリティラベルは、故意に CT を外さないために貼ります。

CT を正しく接続した後、CT の取り外しができないように、同梱のセキュリティラベルを全ての CT に貼ります。CT のストッパーのツメの部分が隠れるように貼ってください。

ラベルは一度剥がすと使えなくなるので、接続に問題ないことを確認して、慎重に貼ってください。




セキュリティラベル

# 蓄電システムの試運転を始める前に

工事が完了したら、蓄電ユニットに電源を入れる前に、必ず次の点検を実施してください。

## 蓄電ユニットの電源投入前点検

### 1 ブレーカ確認

DC ブレーカが「OFF」になっていることを確認してください。➡ 

### 2 装置の外観確認


蓄電ユニットに傷やへこみ、汚れ、腐食、破損がないことを確認してください。➡ 

### 3 装置周辺

蓄電ユニット設置場所付近にガス、引火物等の危険物がないことを確認してください。➡ 

**[対処]** ガス、引火物等の危険物がある場合には、それらを別の場所に移動させてください。

### 4 装置の固定確認

蓄電ユニット固定のベースがしっかりネジ止めされていることを確認してください。➡ 


**[対処]** しっかりネジ止めを行ってください。



### 5 ケーブルの接続確認

誤配線、電線、端子の腐食、変形、損傷がないことを確認してください。➡ 

**[対処]** 誤配線の場合には、配線作業をやり直してください。  
電線、端子に問題があった場合には、問題個所を交換してください。

### 6 端子台の接続端子確認

端子台接続端子のネジに、ゆるみがないことを確認してください。(トルクドライバーを用いて増し締めを行い、既定のトルクで締め付けられているか確認してください) ➡ 

各ケーブルの被覆が端子台に噛み込んでいないことを確認してください。➡   
より線もしくは単線をそのまま端子台へ固定していないことを確認してください。➡ 

**[対処]** 噛み込み圧着不良があれば、手直しを行ってください。単線などそのまま固定している場合には、丸形端子を取り付けて固定してください。

### 7 配線パネル取り付け確認

10ヶ所を所定のネジでしっかりと締め付けてあることを確認してください。➡ 

## 蓄電ユニット・室内リモコンの試運転・試験

電源を入れる前に必ず、「電気測定（絶縁抵抗測定）」と「電源投入前点検」を実施してください。

- ➡ 「[9] 絶縁抵抗の測定」（29 ページ）参照
- ➡ 「蓄電ユニットの電源投入前点検」（34 ページ）参照

電源投入を下記の手順で行います。

- ① DC ブレーカ「ON」（23 ページ）参照
- ② （分電盤）蓄電システム用ブレーカ「ON」（15 ページ）参照
- ③ （分電盤）切替スイッチ「中立」（15 ページ）参照
- ④ リモコン電源スイッチ（左側）「ON」（8 ページ）参照

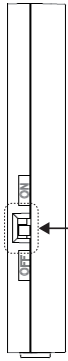
# 試運転 / 試験

## [1] 蓄電システムの試運転

本システムは、試運転を行わないとご利用できません。

途中で終わらせる場合、37 ページの手順に沿って全てのブレーカを「OFF」にしてください。

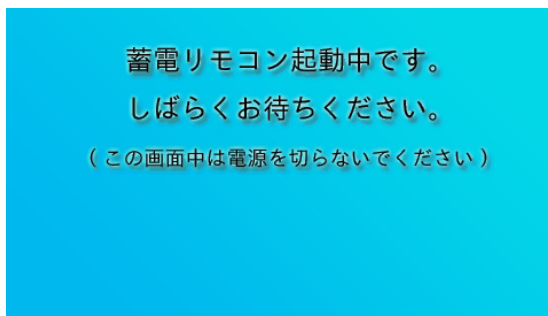
### 1 試運転の開始



(リモコン左側面図)

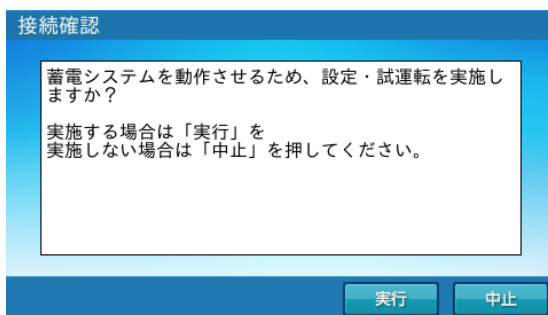
リモコンの左側面にある電源スイッチを「ON」にします。(左図参照)

#### 【起動画面】



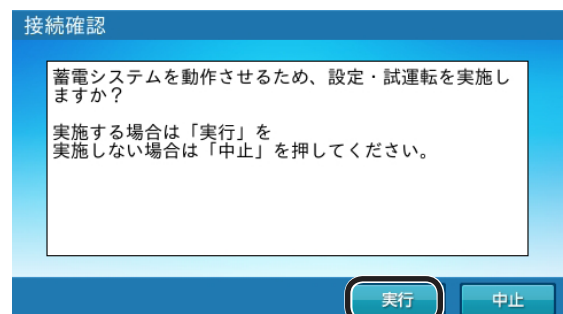
35 ページでの電源投入後、リモコンの電源スイッチを「ON」にすることにより、起動画面になります。起動に 1 分程かかります。起動後は開始画面になります。

#### 【開始画面】



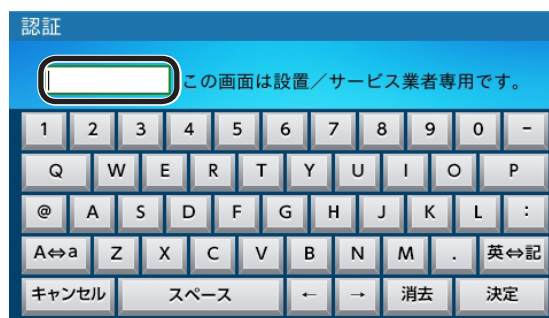
### 2 認証画面に切り替える

[実行] をタッチします。



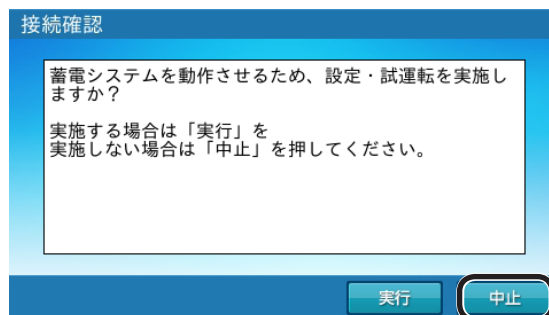
**3 認証コードを入力する**

実行ボタンをタッチすると、認証画面が現れます。  
 設置の際は、認証コードが必要です。認証コードは  
 指定の講習会に参加して入手してください。  
 認証コードを入力し、[決定] ボタンをタッチします。



**認証前に試運転を中止したい場合**

開始画面で [中止] をタッチします。

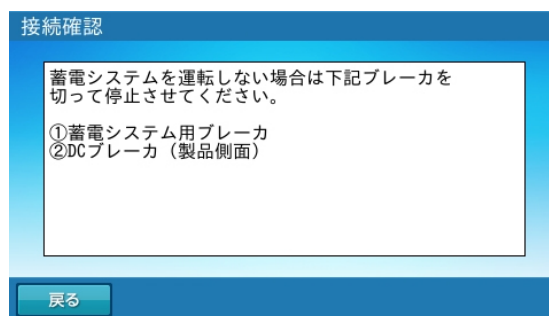


中止ボタンをタッチすると、右の画面に切り替わりま  
 す。以下の手順でシステムの電源を切ってください。  
**[電源 OFF 手順]**

- ① リモコン電源スイッチ「OFF」  
 (リモコン左側面スイッチにて)
- ② 非常時兼用コンセント用ブレーカ「OFF」
- ③ 蓄電システム用ブレーカ「OFF」
- ④ DC ブレーカ「OFF」

復帰時：④→①の手順で「ON」にします。

※ [戻る] を選択した場合、開始画面に戻ります。



蓄電システムの  
試運転

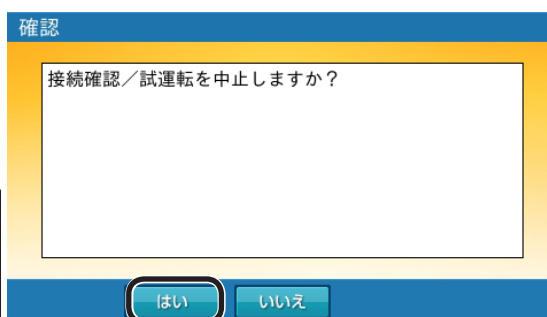
## [2] 試運転中に中止させる方法

認証コード入力後から試運転完了までの間に [中止] をタッチすると右の画面に切り替わります。

### 1 試運転を中止する

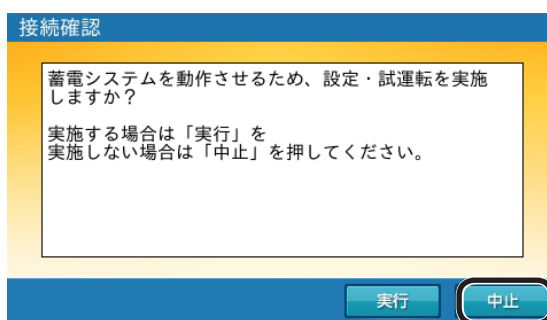
[はい] をタッチして試運転を中止させます。

※試運転を中止すると運転を停止します。  
 ※試運転完了後、再度サービスメニューから試運転を行った場合、運転中であっても試運転を中止すると運転を停止します。  
 運転を開始するには設定情報画面から運転開始を行ってください。(52 ページ 9 参照)



### 2 システムの電源を落とす画面にする

試運転を中止すると開始画面に戻ります。  
 システムの電源を落とす場合は、[中止] をタッチします。  
 ※配線を変更する場合は、必ず [中止] をタッチしてシステムの電源を落としてください。  
 ※試運転を再度実施する場合は、[実行] をタッチします。  
 ※認証済のため、認証画面には切り替わらず接続確認画面 (39 ページ) になります。



### 3 システムの電源を落とす

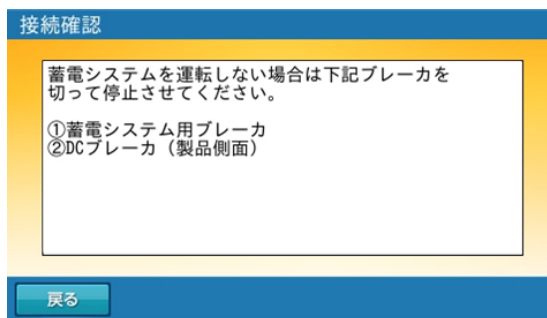
開始画面で [中止] をタッチすると、右の画面に切り替わります。以下の手順でシステムの電源を切ってください。

[電源 OFF 手順]

- ① リモコン電源スイッチ「OFF」  
(リモコン左側面スイッチにて)
- ② 特定コンセント用ブレーカ「OFF」
- ③ 蓄電システム用ブレーカ「OFF」
- ④ DC ブレーカ「OFF」

復帰時：④→①の手順で「ON」にします。

※ [戻る] を選択した場合、開始画面に戻ります。



## [3] 接続確認

認証コード入力後、右の画面を表示します。この画面で試運転を開始するために、各種設定値を入力します。

### 1 設置日を入力する

設置日の年月日の入力欄をタッチします。

### 2 日時を入力する

日時の入力を行い [ 決定 ] ボタンをタッチします。

### 3 各種設定を入力する

設定日が入力された画面に戻ります。

アンペアブレーカ値 / 太陽光発電の有無を選択します。アンペアブレーカ値は、次ページの表を参照しながら、◀/▶マークをタッチして、正しく選択します。すべての項目を入力後、[ 確定 ] ボタンをタッチします。

※設置日が入力されていないと次の画面へ進みません。ご注意ください。

※中止する場合は [ 中止 ] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。

※入力を誤ってしまった場合は、次の「整定値」画面の [ 戻る ] をタッチし、再度設定し直すことができます。

#### 【設定値一覧】

設定項目	設定値	初期値
アンペアブレーカ値	制限なし / 20/30/40/50/60 (A)	制限なし
押し上げ設定	無	無
太陽光発電の有無	有 / 無	有

※設定値の詳細は次ページ (40 ページ) を参照ください。

## 試運転 / 試験

### ● アンペアブレーカ値

設定値を超えないように充放電電力を調整します。

最上流の開閉器がトリップするのを未然に防ぐことができます。

電力契約の内容に応じて、下表を参照しながら、適切に設定してください。

電力契約の内容		アンペアブレーカ値の設定
アンペアブレーカ契約 契約アンペア	その他の契約 最上流 MCCB の定格電流	
20 A	10 A	20 A
30 A	15 A	30 A
40 A	20 A	40 A
50 A	25 A	50 A
60 A	30 A	60 A
—	30 A を超える	制限なし

※契約電力が小さいと、充電電力が小さくなり、満充電になるまで時間を要する可能性があります。

### ● 押し上げ設定

押し上げ設定は初期値（「無」）からは変更できません。

ー押し上げ効果について

- ・ 押し上げ設定「無」の場合  
昼間の使用電力は太陽光発電から供給します。足りない電気を蓄電池から供給します。
- ・ 押し上げ設定「有」の場合  
昼間の使用電力は蓄電池から供給します。その間発電している太陽光からの電力は売電に回せます。

### ● 太陽光発電の有無

太陽光発電をご利用にならない場合のみ、「無」を選択してください。

「無」を選択した場合、同梱品の「CT（PV 電力監視用）」は使用しません。

## [4] 整定値・設定値の確認

### 1 整定値を設定する

次に、整定値の設定をします。

整定値は、電力会社の指示に従って選択してください。

変更する項目があれば、各設定値の◀ / ▶マークをタッチして変更します。

整定値を確認したら [次へ] をタッチします。



### 【整定値一覧】

設定項目	表示	設定値	時間	初期値
交流過電圧検出レベル	OVR	110/115/120	0.5/1.0/2.0	115(V)/1.0(秒)
交流不足電圧検出レベル	UVR	90/85/80	0.5/1.0/2.0	80(V)/1.0(秒)
周波数上昇検出レベル	OFR : 50 Hz	50.5/51.0/51.5	0.5/1.0/2.0	51.0(Hz)/1.0(秒)
	OFR : 60 Hz	60.6/61.2/61.8		61.2(Hz)/1.0(秒)
周波数低下検出レベル	UFR : 50 Hz	49.5/49.0/48.5/48.0/47.5	0.5/1.0/2.0	47.5(Hz)/1.0(秒)
	UFR : 60 Hz	59.4/58.8/58.2/57.6/57.0		57.0(Hz)/1.0(秒)
受動的方式	PAS	± 10 / ± 15 / ± 20	-	± 10(度)
復帰時間	HLd	10/60/150/300	-	300 秒



## [5] 端子電圧の確認

### 1 端子電圧を確認する

画面に従って、下記「蓄電システムの端子電圧測定」の内容に沿って、蓄電ユニットおよび分電盤の端子電圧の測定を実施します。下記、端子電圧が確認できたら、[次へ]をタッチします。

#### ● 蓄電システムの端子電圧測定

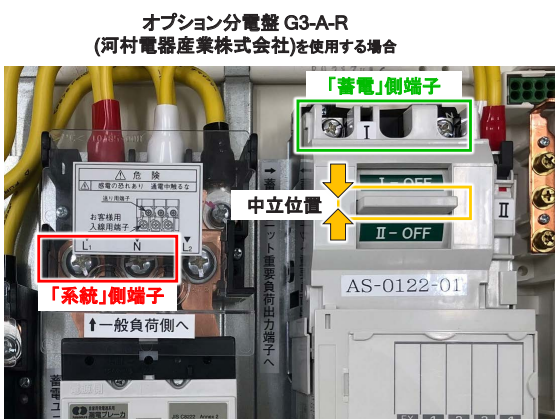
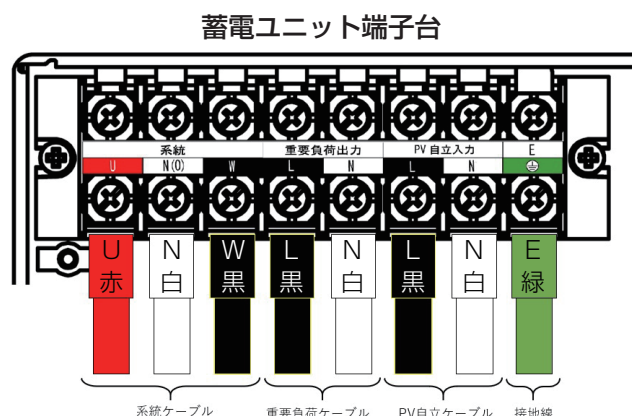
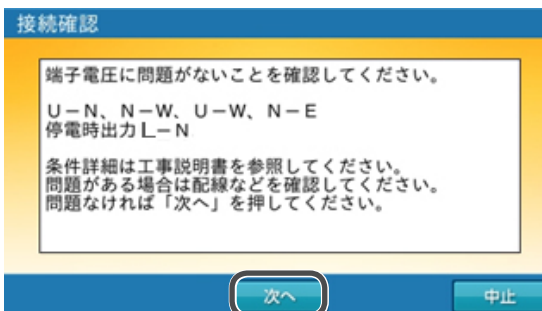
- ① 切替スイッチのレバーを「中立」にしてください。
- ② 下表に示した端子の電圧を測定してください。

#### ・蓄電ユニットの端子電圧測定

測定箇所	規格値	規格値を満足しない場合の処置
系統_U-系統_N(O)	101 ± 6 V	(1)
系統_N(O)-系統_W	101 ± 6 V	
系統_U-系統_W	202 ± 20 V	
重要負荷出力_L-重要負荷出力_N	101 ± 6 V	(2)
系統_N(O)-E	1 V以下	

#### ・分電盤/切替スイッチの端子電圧測定

測定箇所	規格値	規格値を満足しない場合の処置
「系統」側 端子	101 ± 6 V	(1)
「蓄電」側 端子	101 ± 6 V	



蓄電システムの  
試運転

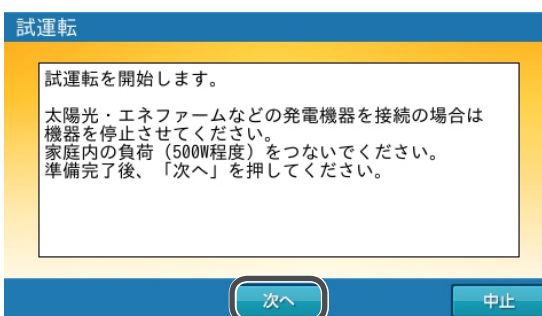
#### 規格値を満足しない場合の処置

- (1) 配線が正しくない可能性があります。  
結線図および接続図 (14 ~ 16 ページ) を参考に、正しく配線されているか確認してください。
- (2) 蓄電ユニットの接地線および家屋のアースを見直してください。  
特に切替スイッチ周辺の配線に誤りがないか、必ず確認してください。

### 2 試運転を開始する

画面に従って、以下の作業を行ってください。

- ① 太陽光発電・エネファーム等の発電機器の停止をさせてください。  
※ 発電機器が動作していると放電テストが行えません。
- ② 家庭内の負荷 (500W 程度) をつないでください。
- ③ 準備ができましたら、[次へ]をタッチしてください。充電動作を開始します。



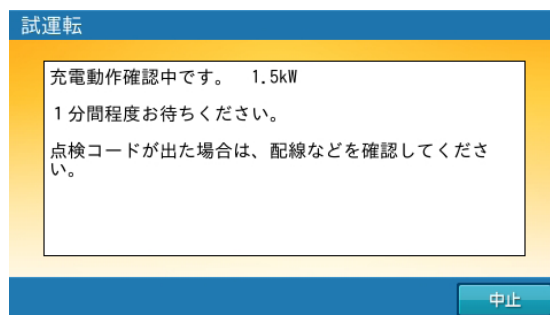
## [6] 充放電動作の確認

### 1 充電動作を確認する

充電動作に問題がなければ、自動的に充電動作確認終了画面へ移行します。

※画面には実際の充電電力が表示されます。

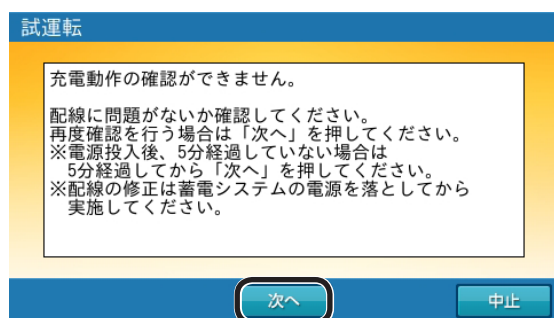
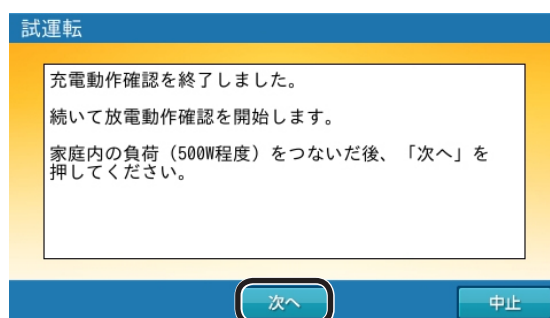
中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。



### 2 充電動作確認終了画面

メッセージに従い、準備ができましたら [次へ] をタッチします。放電作業を開始します。

中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。



### 充電動作の確認ができない場合

下記項目を再確認願います。

- CT の向き、取り付け位置  
逆潮流防止用 CT の向き、取り付け位置、CT クランプ部の外れ、逆潮流防止用 CT センサーケーブルの接続状態 (配線断線、コネクタ部の接続) の確認をお願いします。
- その他配線類の接続  
配線図を確認して頂き、配線上の誤りが無いか再確認をお願いします。  
※配線を変更する場合は、必ず [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従ってシステムの電源を落としてください。この場合は試運転を最初から実施する必要があります。問題解消後、[次へ] をタッチすると、充電動作確認を再度実施します。

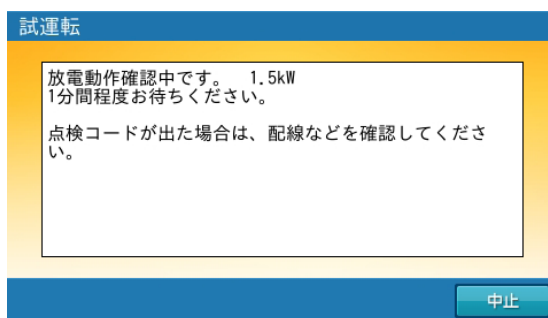
中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。

**3 放電動作を確認する**

放電動作に問題がなければ、放電動作完了画面へ移行します。

※画面には実際の放電電力が表示されます。

中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。

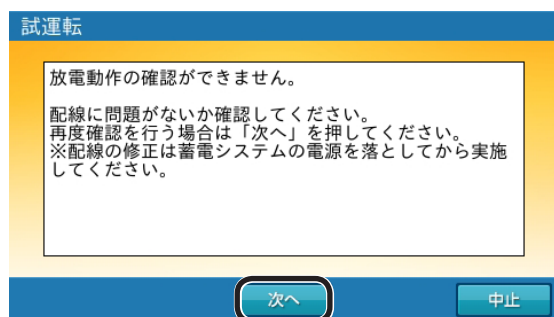
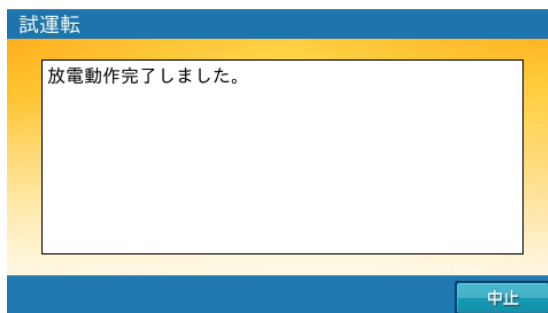


**4 放電動作完了画面**

動作完了後、放電動作確認終了画面へ切り替わります。

※ 5 秒間表示すると次の画面に切り替わります。

中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。



**放電動作の確認ができない場合**

下記項目を再確認願います。

- メッセージに従い、配線の接続部位の状況
- 家庭内負荷の接続状況  
蓄電池からの放電を確認するために、500 W 程度の家庭内負荷を接続してください。
- 太陽光発電・エネファーム等の発電機器の停止
- 配線の接続

逆潮流防止用 CT の外れ、ケーブル類の接続不良等を起こしていないか配線図の再確認をお願いします。(14、15 ページを参照してください)

※配線を変更する場合は、必ず [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従ってシステムの電源を落としてください。この場合は試運転を最初から実施する必要があります。問題解消後、[次へ] をタッチすると、充電動作確認を再度実施します。

中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。

## [7] 発電機器との連携動作確認

発電機器との連携動作確認を行います。

※太陽光発電の設定が無の場合は、発電機器との連携動作確認を行いません。

①太陽光発電やエネファームなどの発電機器の発電電力状態により [ はい ] [ いいえ ] を選択します。

[ はい ] を選択する目安

発電電力が 100 W 以上見込めて連携動作確認が実施可能な場合

[ いいえ ] を選択する目安

雨天その他の影響で発電機器の発電電力が 100 W を見込めない場合

※ [ いいえ ] を選択した場合には、必ず別途発電機器との連携動作確認を行ってください。

※別途連携動作確認を行う場合は、[17] サービスモードへの切り替え方法 (59 ページ) に従い再度試運転を行ってください。

※連携動作確認を行わなかった場合、正常に動作しない可能性があります。

② [ はい ] を選択した場合は、停止させた太陽光発電・エネファーム等の発電機器をメッセージに従い、動作させます。

③発電機器の動作が確認できたら [ 次へ ] をタッチします。

[ はい ] を選択した時は、この画面で連携動作確認を行います。[ いいえ ] を選択した時は、連携動作確認を終了します。

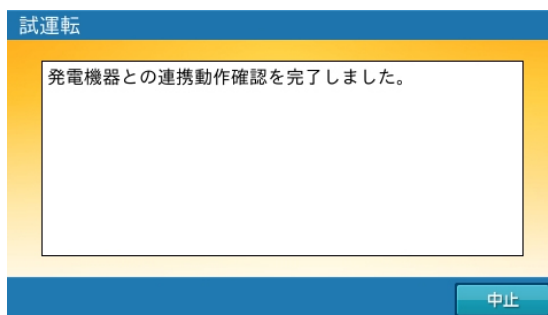
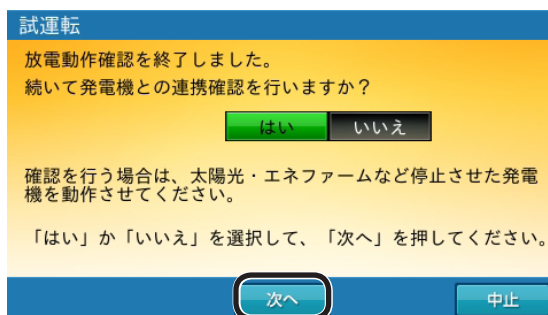
※ CT や配線に間違いがあった場合、後日エラー発報してしまいます。太陽光発電電力を売電しているときに、エラー発報していないことを確認してください。

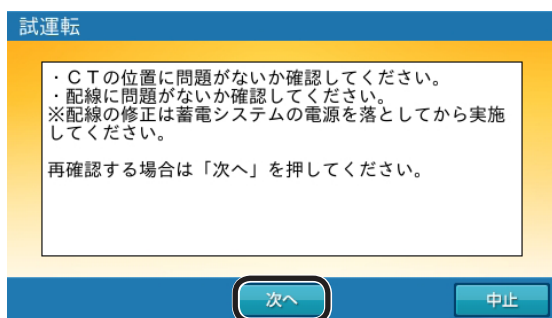
中止する場合は [ 中止 ] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。

### 1 発電機器との連携動作終了画面

連携動作確認完了後、次ページ「発電機器との連携動作確認終了画面」へ切り替わります。

※ 5 秒間表示すると次の画面に切り替わります。





### 発電機器との連携動作確認ができない場合

下記項目を再確認願います。

- メッセージに従い、配線の接続部位の状況
- 太陽光発電・エネファーム等の発電機器の動作状況
- 家庭内負荷の接続状況  
蓄電池からの放電を確認するために、500 W 程度の家庭内負荷を接続してください。
- 配線の接続  
逆潮流防止用 CT、PV 監視用 CT の外れ、ケーブル類の接続不良等を起こしていないか配線図の再確認をお願いします。(14、15 ページを参照してください)

※ 配線を変更する場合は、必ず [ 中止 ] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従ってシステムの電源を落としてください。問題解消後、「次へ」をタッチすると、連携動作確認を再度実施します。

中止する場合は [ 中止 ] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。

## [8] 停電時の動作確認

停電時の動作確認を行います。

画面に従って、以下の作業を行ってください。

- ①蓄電システム用ブレーカを「OFF」
- ②非常時兼用コンセント用切替スイッチの設定を「蓄電」側
- ③重要負荷 非常時兼用コンセントへの負荷接続 (100 W 程度)
- ④準備ができましたら [ 次へ ] をタッチしてください。  
停電時放電動作を開始します。

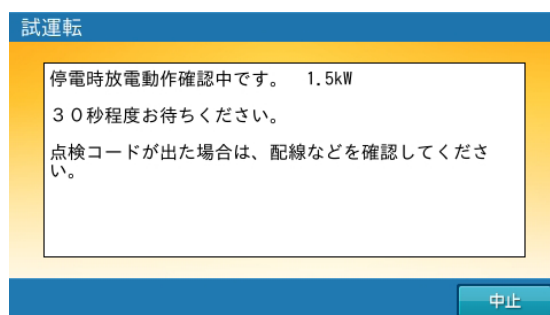
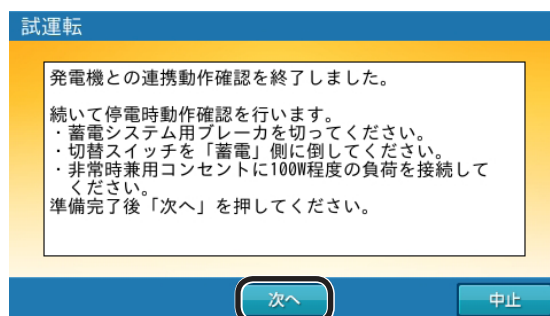
中止する場合は [ 中止 ] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。

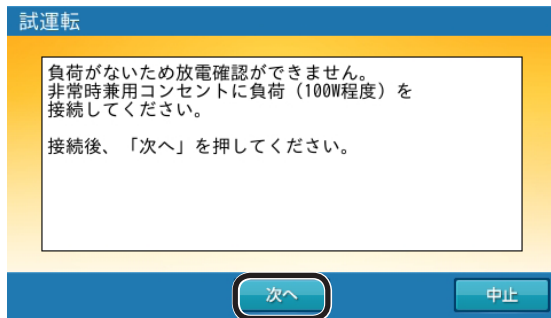
### 1 停電時放電動作を確認する

停電時放電動作に問題がなければ、停電時放電動作終了画面に切り替わります。

※画面には実際の放電電力が表示されます。

中止する場合は [ 中止 ] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。





停電時放電動作の確認ができない場合

下記項目を再確認をお願いします。

- 重要負荷 非常時兼用コンセントへの負荷接続（100 W を超える）の電力消費を確認してください。
- 非常時兼用コンセント用切替スイッチの設定を「蓄電」側へ設定されていることを確認してください。

問題解消後、[次へ]をタッチすると、停電時放電動作確認を再度実施します。

中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」（38 ページ）に従って試運転を中止してください。

2 停電時充電動作を確認する

太陽光発電からの充電動作確認を行います。

※太陽光発電の設定が無の場合は、発電機器との連携動作確認を行いません。

①太陽光発電の発電電力状態により [はい][いいえ] を選択します。

[はい] を選択する目安

発電電力が 100 W 以上見込めて停電時充電動作確認が実施可能な場合

[いいえ] を選択する目安

雨天その他の影響で発電機器の発電電力が 100 W を見込めない場合

※ [いいえ] を選択した場合には、必ず別途停電時充電動作確認を行ってください。

※別途停電時充電動作確認を行う場合は、[17] サービスモードへの切り替え方法（59 ページ）に従い再度試運転を行ってください。

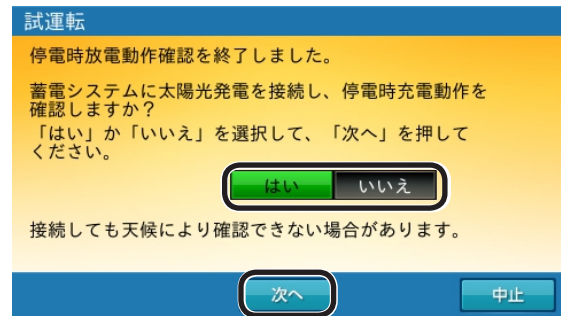
※停電時充電動作確認を行わなかった場合、正常に動作しない可能性があります。

② [次へ] をタッチします。

[はい] を選択した時は、この画面で停電時連携動作確認を行います。[いいえ] を選択した時は、停電時連携動作確認を終了します。

※接続の誤り等があった場合、後日の通電にて、点検コードを発報してしまう可能性があります。

中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」（38 ページ）に従って試運転を中止してください。

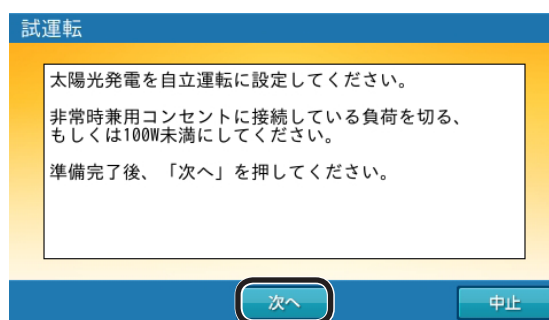


**3 停電時充電動作の準備をする**

停電時充電動作を確認するために、以下の作業を行ってください。

- ①太陽光発電システムのパワーコンディショナを自立運転に切り替えます。手動でスイッチを切り替えて自立運転モードに変更してください。  
※太陽光パワーコンディショナの自立運転切り替え方法については、太陽光パワーコンディショナの取扱説明書の内容を確認してください。
- ②重要負荷 非常時兼用コンセントへつないだ負荷を OFF にしてください。
- ③準備ができましたら [次へ] をタッチしてください。停電時充電動作を開始します。

中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。

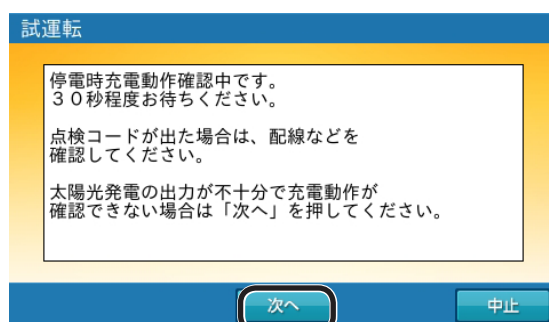


**4 停電時充電確認画面**

停電時充電動作中は右の画面になります。動作に問題なければ、停電時充電動作終了画面に切り替わります。

※太陽光発電の電力が見込める (100 W 以上) 場合は、[次へ] を絶対にタッチしないでください。

中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。

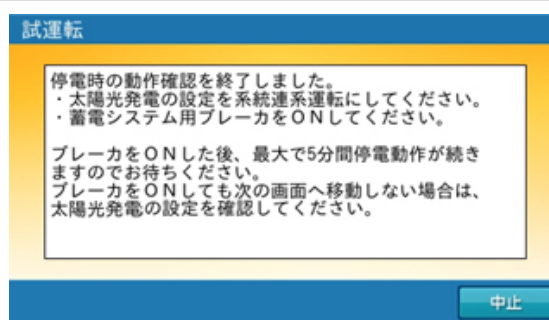


**5 停電時動作確認終了**

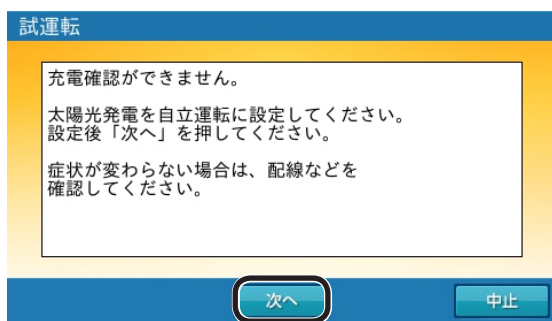
確認完了後、画面に従って、以下の作業を行ってください。

- ①太陽光発電システムのパワーコンディショナを系統連系運転に切り替えます。手動でスイッチを切り替えて系統連系運転モードに変更してください。  
※太陽光パワーコンディショナの系統連系運転切り替え方法については取扱説明書の内容を確認してください。
- ②蓄電システム用ブレーカを「ON」してください。停電復帰のカウントダウン画面になります。停電復帰までの時間は、整定値の「復帰時限」で決まります。(40 ページ「[4] 整定値・設定値の確認」の項目を参照してください)

中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。



蓄電システムの  
試運転



### 停電時充電動作の確認ができない場合

下記項目の再確認をお願いします。

- 太陽光パワーコンディショナの自立運転切り替えができていないか確認をお願いします。(詳しくは、太陽光パワーコンディショナの取扱説明書を参照してください。)
- 太陽光発電システム側で発電 (100 W 以上) が出来ているか確認をお願いします。

問題解消後、[次へ]をタッチすると、停電時充電動作確認を再度実施します。

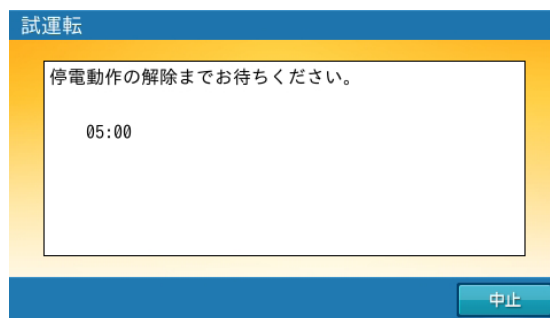
※雨天等で太陽光発電の電力が見込めない (100 W 未満) 場合は、[次へ]をタッチして、停電時充電確認画面 (46 ページ) に従って [次へ] をタッチし、停電時動作確認を終了させてください。

中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。

### 6 停電動作を解除

蓄電システム用ブレーカを「ON」した後、停電動作の解除まで 5 分のカウントダウンを開始します。  
※太陽光のブレーカを「OFF」にした場合は、忘れずに「ON」してください。

中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。



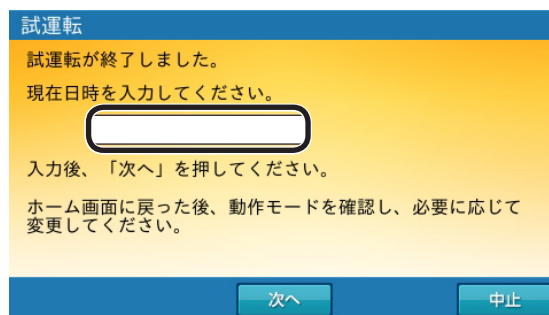


## [9] 試運転を完了させる

試運転を完了するために、現在日時を入力します。  
 ※入力した時刻で動作するため、正確な時刻を入力してください。

### 1 画面の入力欄をタッチする

日時入力画面になります。  
 ※現在日時の入力がないと次の画面へ進みませんので、ご注意ください。



中止する場合は [中止] をタッチし、「[2] 試運転中に中止させる方法」(38 ページ) に従って試運転を中止してください。

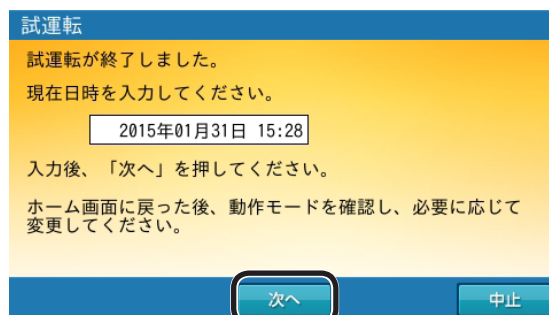
### 2 日時を入力する

入力した後、[確定] をタッチします。



### 3 入力画面を完了する

入力した後、[次へ] をタッチします。



### 4 ホーム画面に切り替わることを確認する

試運転が完了するとホーム画面 (サービスモード) になります。(53 ページの工場出荷時設定の動作となります)



蓄電システムの  
試運転

## [10] 登録情報の設定

次に、登録情報を設定します。

### 1 システムに情報を登録する

ホーム画面（サービスモード）の[登録]をタッチします。



### 2 情報を入力する

登録情報画面で[次へ]をタッチし、2/3、3/3 ページにある設定項目を選択・入力します。

※登録情報は3ページ構成です。

必ずすべての設定項目を選択・入力してください。

※試運転で入力済みの「設置日」「太陽光発電有無」は確認のみ行ってください。

※郵便番号は、設置場所の番号を入力してください。

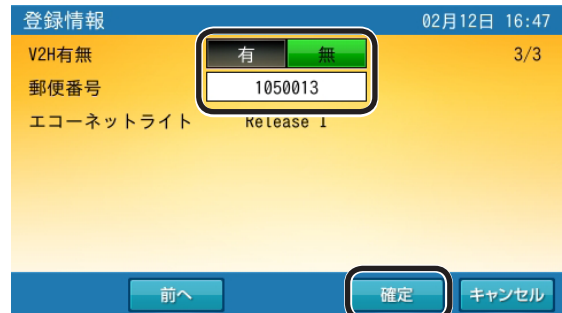


設置項目	設定値	初期値
設置日	YYYY/MM/DD	①
設置場所	屋内 / 屋外	屋外
太陽光発電有無	有 / 無	②
太陽光発電の定格出力	0 ~ 50.0 kW	-kW
太陽光以外の発電装置	有 / 無	無
電気給湯器	有 / 無	無
V2H有無(注)	有 / 無	無
郵便番号	000-0000 ~ 999-9999	未入力

①, ②試運転で入力した値を表示します。

(注) V2Hとは: Vehicle to Home

EV(電気自動車)の大容量バッテリーから電力を取り出し、分電盤を通じて家庭の電力として使用できる仕組み。



### 3 情報を確定する

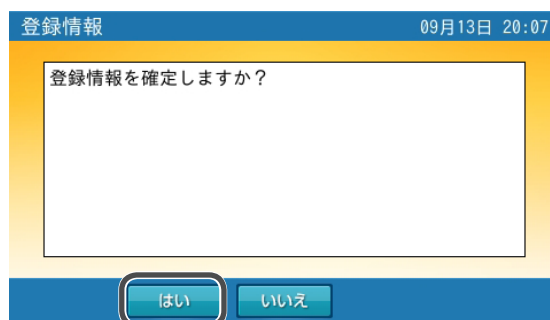
すべての設定項目が入力できたら、[確定]をタッチします。

※入力を誤ってしまった場合

入力を誤ってしまった場合は、[前へ]をタッチし、再度設定し直すことができます。

4 情報を保存する

確認画面で [はい] をタッチします。確定すると設定を保存し、ホーム画面に戻ります。



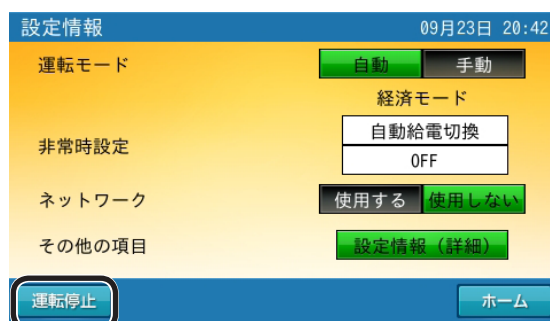
## [1 1] 設定情報の確認および設定

次に、設定情報（詳細）を設定します。

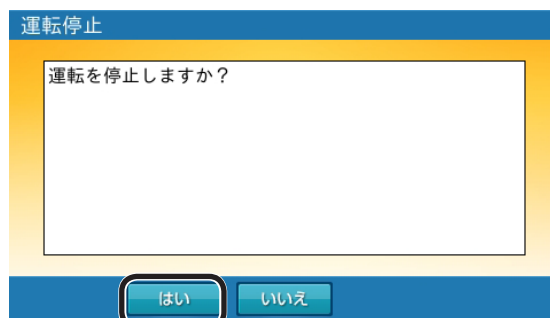
1 ホーム画面の [設定] をタッチします。



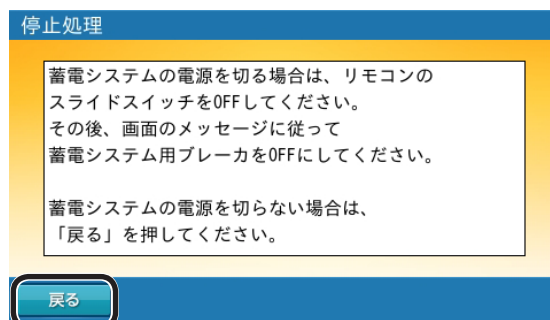
2 設定情報画面に入り、[運転停止] をタッチします。  
※設定情報を設定する際は、事前に運転停止にする必要があります。



3 確認画面で [はい] をタッチします。  
運転が停止されます。



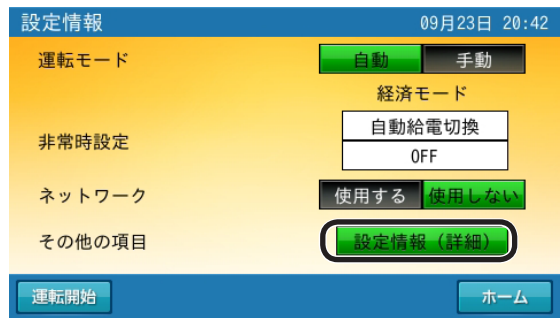
4 [戻る] をタッチします。



蓄電システムの  
試運転

## 試運転 / 試験

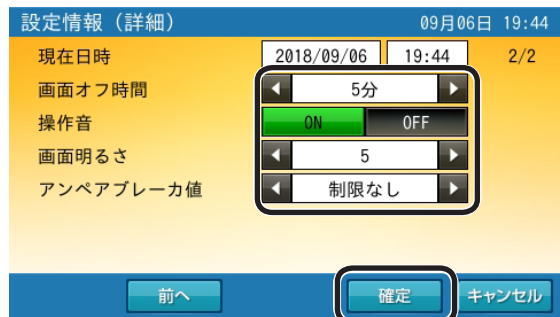
- 5 設定情報画面に入り、[ 設定情報 (詳細) ] をタッチします。(画面内の太枠部をタッチします)



- 6 ※試運転で入力済みの「整定値」「押し上げ」「現在日時」「アンペアブレーカ値」を確認してください。  
※「画面オフ時間」「操作音」「画面明るさ」は初期値になっていることを確認してください。初期値は下表「設定情報詳細一覧」をご覧ください。

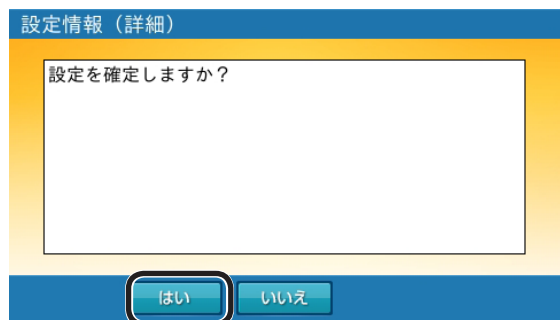
設置項目	設定値	初期値
整定値	整定値確認を参照	①
押し上げ	無	無
現在日時	YYYY/MM/DD	②
画面オフ時間	1 ~ 10分	5分
操作音	ON/OFF	ON
画面明るさ	1 ~ 10	5
アンペアブレーカ値	各種設定値を参照	③

①, ②, ③試運転で入力した値を表示します。

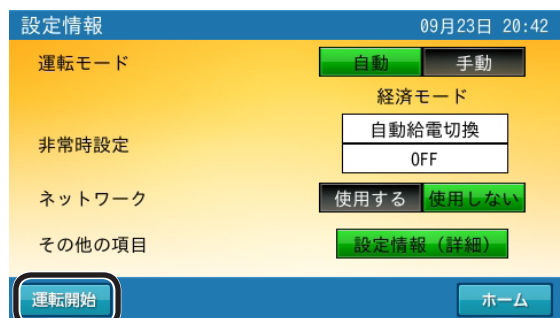


- 7 すべての設定項目が入力できましたら [ 確定 ] をタッチします。

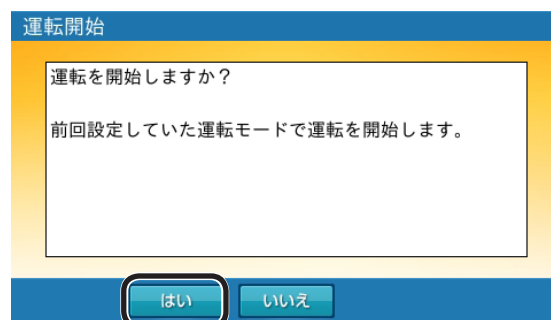
- 8 確認画面で [ はい ] をタッチします。  
確定すると設定を保存します。



- 9 設定情報の設定が完了したので、[ 運転開始 ] をタッチします。



- 10 確認画面で [はい] をタッチします。  
 運転が開始されます。

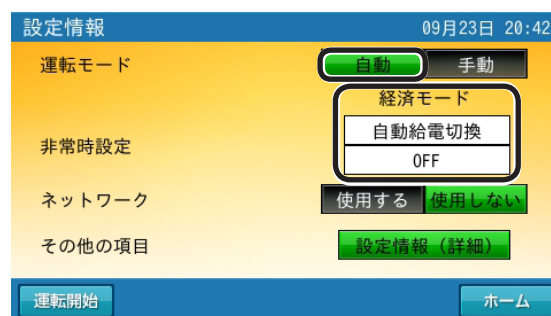


## [12] 初期値の確認

次に、運転モード、充放電時刻、非常時設定、押し上げ設定が工場出荷時の値になっていることを確認します。

- 1 ①設定情報画面にて、「運転モード」、「非常時設定」、「非常時安心設定」を確認します。画面内の太枠部が下表のとおりであることを確認してください。

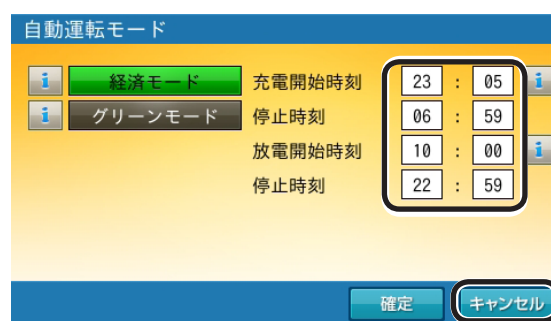
設置項目	初期値
運転モード	経済モード
非常時設定	自動給電切換
非常時安心設定	OFF



- ②運転モードの [自動] をタッチします。

- ③次に「充電開始時刻」「充電終了時刻」「放電開始時刻」「放電終了時刻」を確認します。画面内の太枠部が下表のとおりであることを確認してください。

設置項目	初期値
充電開始時刻	23:05
停止時刻	06:59
放電開始時刻	10:00
停止時刻	22:59

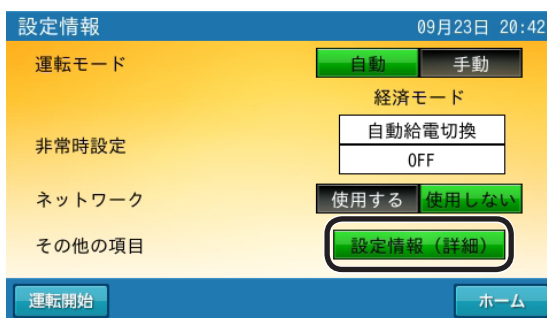


- ④確認ができましたら [キャンセル] をタッチします。

蓄電システムの  
試運転

## 試運転 / 試験

- 2 ①設定情報画面で [ 設定情報 (詳細) ] をタッチします。



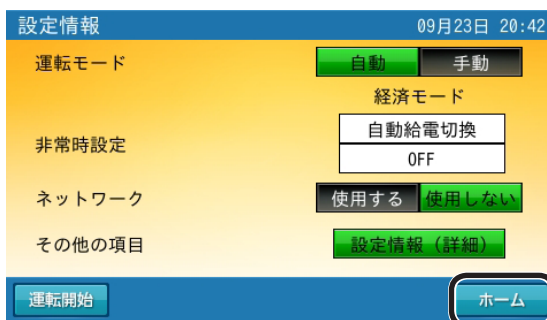
- ②設定情報 (詳細) 画面の最下段に、押し上げ設定の状態が表示されます。押し上げ設定の確認をします。画面内の太枠部が下表のとおりであることを確認してください。

設置項目	初期値
押し上げ	無



- ③確認ができましたら [ キャンセル ] をタッチします。

- 3 [ ホーム ] をタッチして、ホーム画面に戻ります。

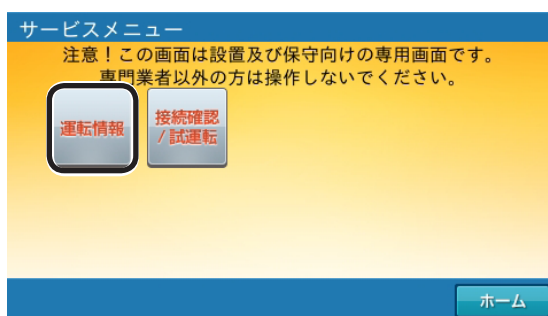


## [13] 運転情報の確認

- 1 ホーム画面で右の画面にある赤枠箇所をタッチします。タッチするとサービスメニューになります。  
※上記の操作はサービスモード（背景がオレンジ）の時のみ有効です。



- 2 サービスメニューで [ 運転情報 ] をタッチします。

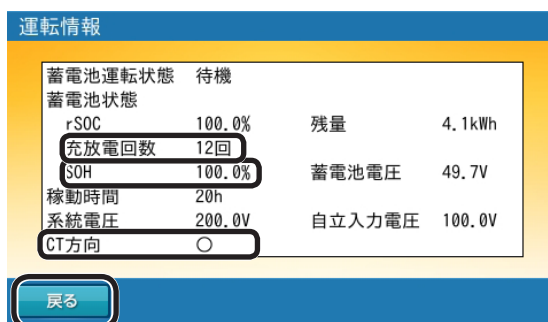


- 3 運転情報画面で「充放電回数」「SOH」「CT 方向」を確認します。

CT 方向：逆潮流防止用 CT の向きが合っているか確認できます。  
CT 方向の表示

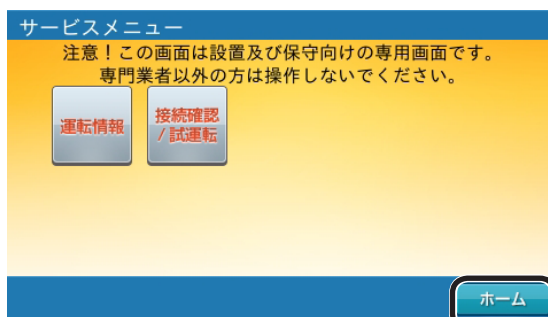
CT の状態	表示
向きが両方とも合っている	○
どちらかあるいは両方間違っている	×
判定不能（外れている、放電中）	×

※太陽光発電が発電していない状態で確認してください。  
(売電している状態だと、CT の向きが合っても表示は「×」になります)  
※蓄電システムが放電中あるいは停電運転中は判定できないため、表示が「×」となります。



- 4 確認できましたら [ 戻る ] をタッチして、サービスメニューに戻ります。

- 5 サービスメニューで [ ホーム ] をタッチして、ホーム画面に戻ります。



蓄電システムの  
試運転

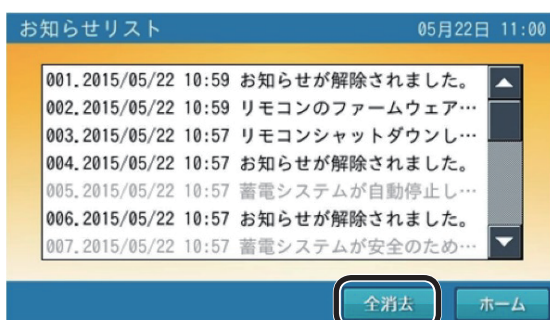
## [14] お知らせリスト履歴の消去

お知らせリストの履歴を消去する方法は以下の通りです。

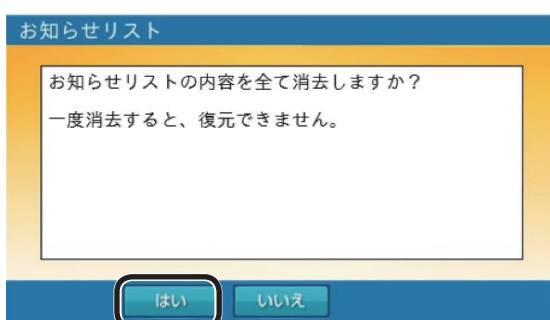
- 1 [お知らせ] をタッチして、お知らせリスト画面にします。



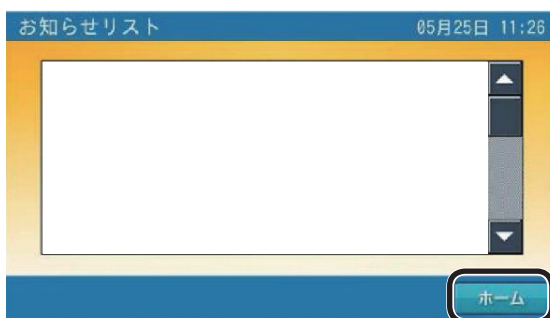
- 2 [全消去] をタッチします。  
※室内リモコンのソフトウェアのバージョンによっては、[全消去]が表示されません。その場合は、手順 4 にお進みください。



- 3 確認画面で [はい] をタッチします。



- 4 [ホーム] をタッチして、ホーム画面にします。





## [15] サービスモードを解除する

試運転および各種設定が終わったら必ずお知らせリストの履歴を消去し、サービスモードを解除してください。サービスモードの解除方法は以下の通りになります。お知らせリストの履歴消去は、[14] お知らせリスト履歴の消去（56 ページ）に従って行ってください。

- 1 ホーム画面から [解除] をタッチします。[解除] をタッチすると、画面の背景が橙色から水色に切り替わります。

※背景が橙色：サービスモード  
背景が水色：ユーザーモード  
となります。



- 2 画面がユーザーモード（背景が水色）になったことを、必ず確認してください。



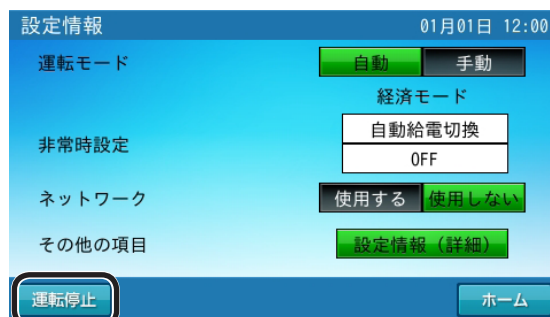
## [16] 蓄電システムの停止方法

試運転完了後は、以下の手順でシステムの電源を落とします。

- 1 ホーム画面の [設定] をタッチします。

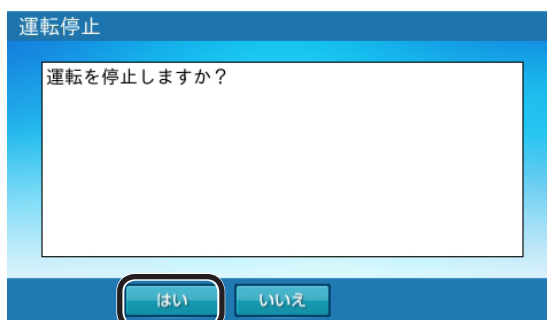


- 2 設定情報画面で [運転停止] をタッチします。

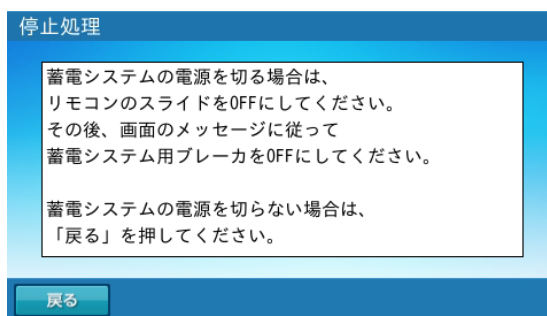


## 試運転 / 試験

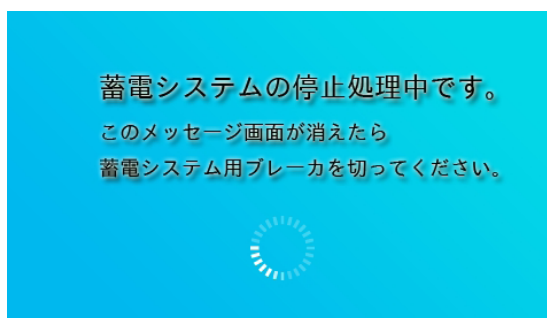
- 3 確認画面で [はい] をタッチします。



- 4 停止処理の画面が表示されます。  
※蓄電システムの電源を落とさない（運転停止のみ）場合は、[戻る] をタッチします。



- 5 蓄電システムの電源を落とす場合は、リモコン左側面の電源スイッチを「OFF」にします。電源スイッチを「OFF」にするとメッセージが表示されます。



- 6 蓄電システム用ブレーカを「OFF」にします。

- 7 DC ブレーカを「OFF」にします。

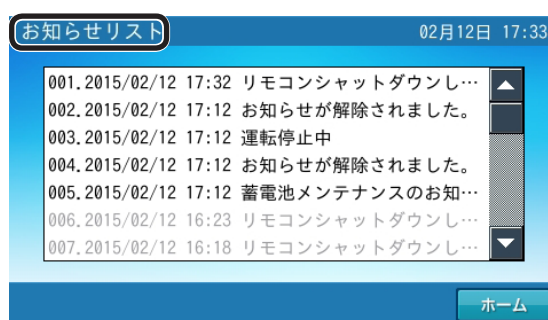
## [17] サービスモードへの切り替え方法

サービスモードへの切り替えは、試運転完了後に再度試運転、各種設定、運転情報の確認をしたい場合にのみ必要となります。サービスモードへの切り替え方法は以下の通りです。

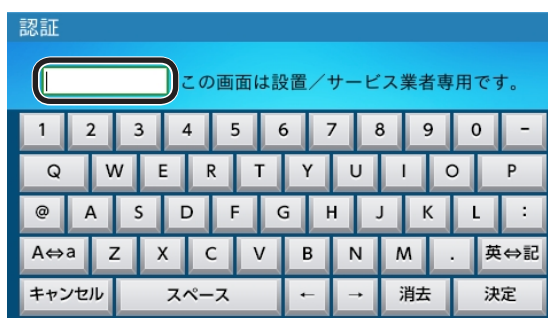
- 1 ホーム画面（ユーザーモード）で [お知らせ] をタッチします。



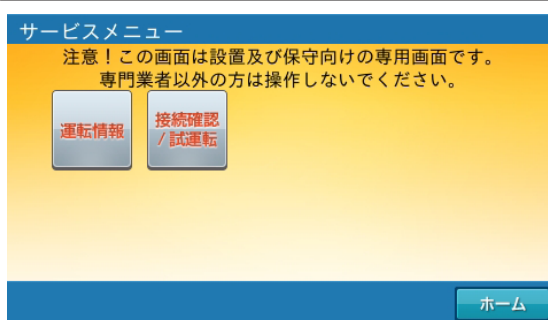
- 2 お知らせリストの左上のタイトル部を 4 秒長押しします。  
※次の画面を表示するまで 10 秒ほどかかることがあります。



- 3 認証コードを入力し、[決定] ボタンをタッチします。  
※認証コードは指定の講習会に参加して入手してください。



- 4 サービスモードに切り替わります。試運転する場合は、「接続確認 / 試運転」をタッチします。実施方法は「[1] 蓄電システムの試運転」(36 ページ) に従って行ってください。  
運転情報を確認する場合は、[運転情報] をタッチします。確認方法は「[13] 運転情報の確認」(55 ページ) に従って行ってください。



蓄電システムの  
試運転

- 5 各種設定を変更・確認する場合は [ホーム] をタッチします。登録情報を変更・確認する場合は、「[10] 登録情報の設定」(50 ページ) に従って行ってください。

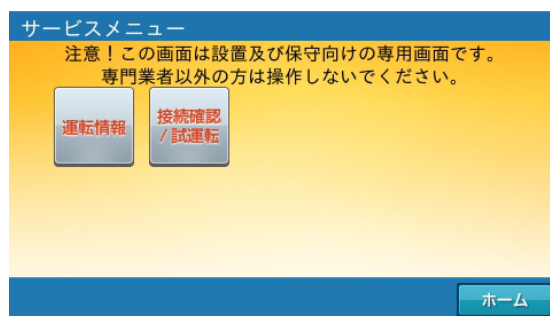
設定情報を変更・確認する場合は「[11] 設定情報の確認および設定」(51 ページ) に従って行ってください。

※サービスモードのホーム画面からサービスメニューを表示させる方法

- ①右の画面の赤枠箇所をタッチします。



- ②サービスメニューに切り替わります。

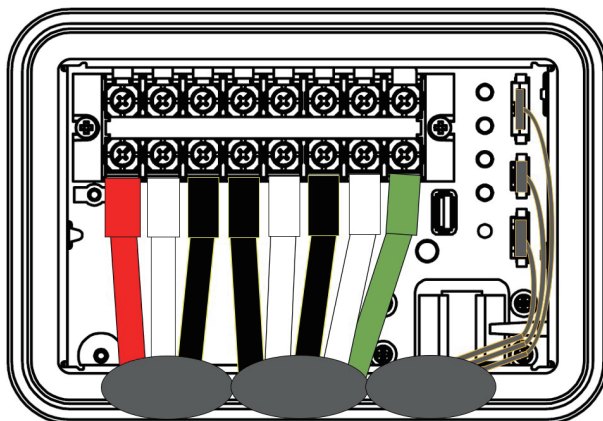


※サービスモードに切り替えた場合も作業が終わったら必ずお知らせリストの履歴を消去し、サービスモードを解除してください。お知らせリストの履歴消去は、「[14] お知らせリスト履歴の消去」(56 ページ) に従って行ってください。解除方法は「[15] サービスモードを解除する」(57 ページ) に従って行ってください。

# 蓄電ユニットの最終作業

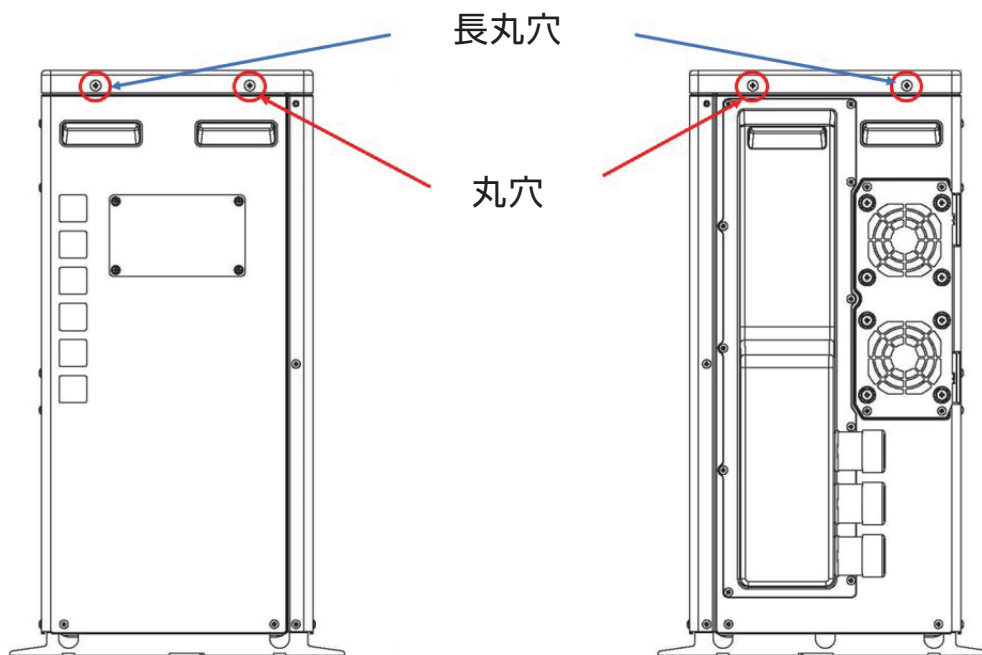
## [1] パテ埋め

- メンテナンスエリアの開口部（3箇所）にパテを隙間なく充填してください。
- メンテナンスエリア内部から見て、開口部に隙間が見えないことを確認してください。




## [2] 天板の取り付け

天板を丸穴が正面側、長丸穴が背面側になるように据えて、保管しておいたネジ4つを使用して、丸穴→長丸穴の順にネジを取り付けてください。  
(締め付けトルク  $2.0 \pm 0.2 \text{ N} \cdot \text{m}$ )



# 蓄電システムの最終確認

## 装置の外観確認

蓄電ユニットに傷やへこみ、汚れ、腐食、破損がないことを確認してください。➡  点検

# お客様への動作説明

## 動作説明

- お客様に取扱説明書に従い説明を行ってください。
- 運転モード、および停電時動作の取り扱いについて必ず説明を行ってください。
- 室内リモコンの現在時刻の定期的な修正について、必ず説明してください。（現在時刻がずれると、割高な電気料金で充電を行ってしまう等の問題があります）

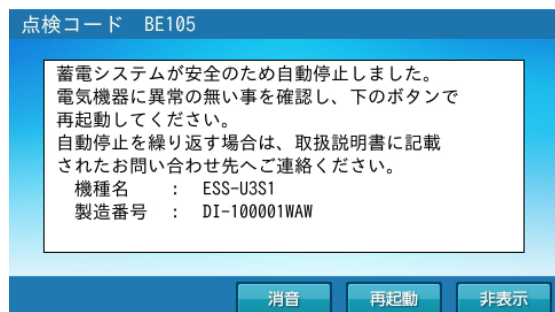
# 施工完了後

- 「設置完了報告書」に必要事項を記入のうえ、ニチコン（株）にお渡してください。
- 施工完了後、太陽光パワーコンディショナのスイッチが「ON」になっていることを確認してください。
- 設置から連系運転開始あるいはお客様使用開始日までの間は、必ず下記の状態にしてください。下記の作業が行われない場合、蓄電池が過放電状態になり、使用できなくなります。
  - ① リモコン電源スイッチ「OFF」（リモコン左側面スイッチにて）
  - ② 切替スイッチ「系統」
  - ③ 蓄電システム用ブレーカ「OFF」
  - ④ DC ブレーカ「OFF」

※電力会社との契約を完了し、通電したままお客様に引き渡す場合は、上記の状態にする必要はありません。

# エラーが発生（点検コードが表示）したら

エラーが発生（点検コードが表示）した場合には、室内リモコンの画面に内容が表示されます。内容表示にしたがって確認を行ってください。対処に関しては、66 ページを参照してください。（点検コード 画面例）



※原因を取り除いた後、点検コード画面上の「再起動」をタッチすると、エラーが解除されます。

点検コードによっては、「再起動」をタッチ後、しばらくお待ちいただく場合があります。

配線等の修正を行う場合は、下記の手順で蓄電システムの電源を落としてから対処してください。

- ① エラー修正中に非常時兼用コンセント用切替スイッチを使用されたい場合は、「系統」側にする
- ② 室内リモコンの電源スイッチを「OFF」にする
- ③ 蓄電システム用ブレーカを「OFF」にする
- ④ DC ブレーカを「OFF」にする

対処後、逆の手順で電源を投入してください。

- ① DC ブレーカを「ON」する
- ② 蓄電システム用ブレーカを「ON」にする
- ③ 室内リモコンの電源スイッチを「ON」にする
- ④ 非常時兼用コンセント用切替スイッチを「蓄電」側にする

- 本システムでは、リモコンによるメニュー画面で [再起動] をタッチすることで、システムの再起動が可能です。エラー修正の対処をされた場合には、このボタンにより再確認することが可能です。改善に至らない場合は、画面の指示に従ってください。[再起動] をタッチした後、しばらくお待ち頂く場合があります。

## エラーが発生（点検コードが表示）したら

### ■ 点検コード一覧

故障度	エラー解除方法	点検コード	保護機能種類
重故障	室内リモコンで再起動可能	BE415	スイッチギア異常
		BE416	セル異常
		BE419	電池サーミスタ異常
		BE422	電池システム容量異常
		BE424	電池高温異常
		BE433	電池システム電圧異常
		BE435	電池電圧異常
		BE501	チョッパ異常（上下アーム短絡過電流検出）
		BE502	出力制御異常
		BE503	リレー制御異常
		BE504	コンバータ部回路・センサー異常
		BE509	PCS 内部温度上昇異常
		BE510	電解コンデンサ過電圧
		BE511	電解コンデンサ低電圧
		BE513	端子台温度異常
		BE514	センサ補正值異常
		BE515	センサ異常
		BE516	リアクトル異常
		BE518	CT U 相脱落
		BE519	CT W 相脱落
BE520	CT 片相逆付		
BE521	PCS サーミスタ異常		
中故障	室内リモコンで再起動可能	BE105	逆電力
		BE106	直流分
		BE110	交流過電流異常
		BE112	過電圧異常
		BE114	起動時系統電圧異常
		BE201	自立出力瞬間ピーク電圧
		BE202	自立出力低電圧
		BE203	自立出力過電流
		BE301	AC リンク周波数
		BE401	電池過電圧
		BE402	電池不足電圧
		BE406	電池瞬間充電過電流
		BE407	電池平均充電過電流
		BE408	電池瞬間放電過電流
		BE409	電池平均放電過電流
		BE411	電池間 CAN 通信異常
		BE414	PCS 間 CAN 通信異常

点検コードの表示について



## エラーが発生（点検コードが表示）したら

### ■ 点検コード一覧（続き）

故障度	エラー解除方法	点検コード	保護機能種類
軽故障	自動復帰	BF101	系統過電圧
		BF102	系統不足電圧
		BF103	系統周波数上昇
		BF104	系統周波数低下
		BF107	瞬時不平衡過電圧
		BF108	受動的単独運転
		BF109	能動的単独運転
		BF111	瞬時交流過電流
		BF403	電池過充電
		BF404	電池過放電
		BF405	電池高低温警告
		BF410	電池直流過電流
		BF413	PCS 間 CAN 通信警告
		BF508	PCS 内部温度上昇警告
		BF512	FAN 異常
BF550	RS485 通信エラー		
警告	室内リモコンで時間を設定で解除 ネットワークがある場合は自動	BF517	PCS 現在時刻初期化
	コーションのみ	BC094	PCS ファームウェアアップデート
		BC096	運転停止
		BC097	メンテナンスモード
		BC417	SOH 警告
		BC525	PCS ファームウェアアップデートエラー
		BC551	ルータ PING 疎通エラー
		BC554	ファームウェアアップデート中
		BC556	リモコンシャットダウン
		BC562	保守サーバ通信エラー
BC564	リモコンファームウェアアップデートエラー		

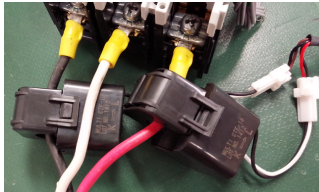
点検コードの  
表示について

# 主な点検方法と対処方法

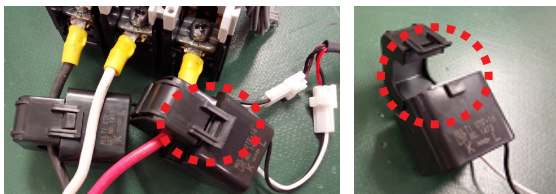
● 下記は、施工時に発生しやすいエラーです。リモコン表示の内容に従って対処してください。

## ■ BE105、BE518、BE519、BE520 を表示した場合

- ・逆潮流防止用 CT の取り付けや CT とケーブルがしっかり接続されていない可能性があります。「CT の設置、配線」(33 ページ) の確認を行い、正しく取り付けられているか見直ししてください。(CT の写真は状態を見やすくするためにセキュリティラベルは取ってあります)



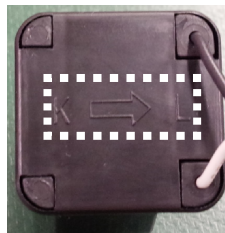
正しい例



誤った例：ロックが不十分な場合  
(盤内等で押され開いてしまう)



内側表示



裏面

系統の向き (L 側) を示す表示位置

## CT センサー取り付け

- ・分電盤の配線が間違っている可能性があります。「全体システム構成 (結線図、接続図)」(13 ~ 16 ページ) を参考に、正しく配線されているか確認してください。間違っている場合は、正しく配線し直してください。

## ■ BF517 を表示した場合

- ・現在日時が設定されていない可能性があります。室内リモコンで現在日時を再設定してください。現在日時を入力したら、必ず [ 決定 ] をタッチしてください。

## ■ BE401、BE402、BE411、BF413、試運転中に BE433 を表示した場合

- ・作業を中断し、販売会社にご連絡ください。

## ■ BE504 を表示した場合

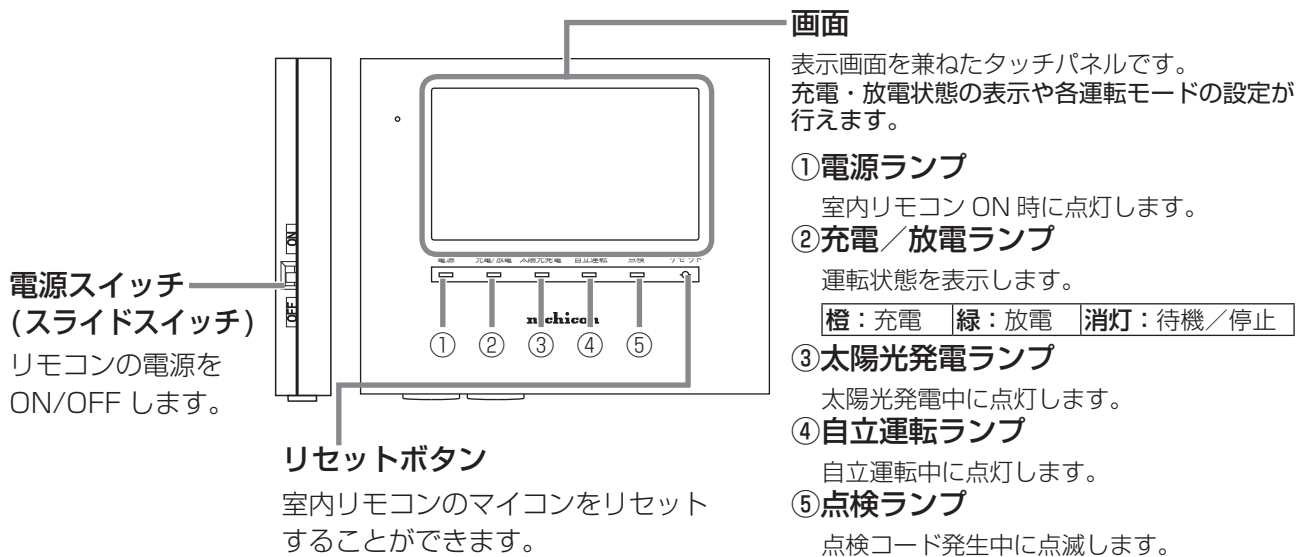
- ・DC ブレーカが「ON」になっていることを確認してください。「OFF」になっている場合、「ON」にしてから、点検コード画面上の「再起動」をタッチしてください。

## 点検コードは表示されないが、放電しない場合 (または放電量が異常に少ない場合)

- CTの取り付け位置が間違っている可能性があります。「蓄電ユニットの配置、配線」(20～30ページ)や「CTの設置、配線」(33ページ)を参考に、適切に取り付けられているか確認してください。間違っている場合は、正しく取り付けから、放電確認を行ってください。
- 現在時刻あるいは充放電時間帯が間違っている可能性があります。室内リモコンでそれぞれが正しい設定になっているか確認してください。間違っている場合は、現在日時を再設定してください。
- 太陽光が売電中は、蓄電システムは放電できません。太陽光の発電を止めてから放電の確認を行ってください。
- 蓄電池残量がゼロになっている可能性があります。室内リモコンで蓄電池残量を確認してください。蓄電池残量がゼロの場合は、手動の充電モードで充電を行い、蓄電池残量を10%以上にしてから、放電確認を行ってください。

# 室内リモコン各部の名称とはたらき

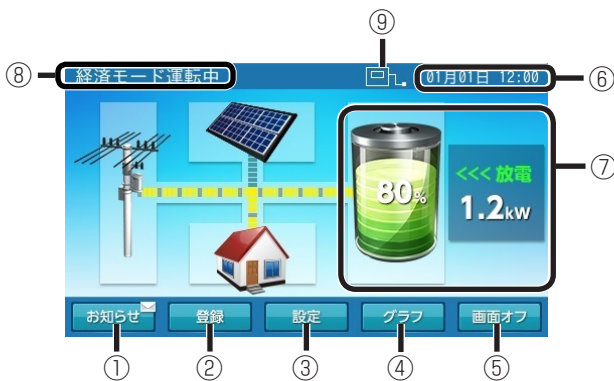
## [1] 室内リモコンの本体について



## [2] 室内リモコンの表示について

この製品は、室内リモコンの画面をタッチしてさまざまな操作を行います。


### ■例：ホーム画面







### ■例：自動運転モード設定画面




### <ホーム画面>

① お知らせ	タッチするとお知らせが参照できます。未読のお知らせがある場合、[お知らせ]部に  マークが表示されます。
② 登録	タッチすると蓄電システムに関する情報を表示します。
③ 設定	タッチすると各種設定の画面を表示します。
④ グラフ	タッチすると過去の充放電履歴をグラフで表示します。
⑤ 画面オフ	タッチすると画面が消えます。再度画面をタッチすると表示します。
⑥ 時計	現在日時を表示します。
⑦ 充放電情報	蓄電池の残量や充放電の電力量を表示します。
⑧ 運転モード	現在の運転モードを表示します。ECHONET Lite 等の室内リモコン以外から運転モードを変更した際は先頭に「リモート」と表示されます。

<p>⑨ ネットワーク</p>	<p>ネットワークへの接続状態を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有線 LAN を使用している場合                      接続できているとき                       接続できていないとき </li> <li>・無線 LAN を使用している場合                      接続できているとき                       接続できていないとき </li> </ul>
-----------------	---

<自動運転モード設定画面>

<p>⑩ 充電／放電時刻設定</p>	<p>タッチすると蓄電池システムの充放電時間を設定する画面を表示します。</p>
<p>⑪ </p>	<p>タッチすると機能の説明を表示します。</p>
<p>⑫ 確定</p>	<p>タッチすると設定した内容を保存します。</p>
<p>⑬ キャンセル</p>	<p>タッチすると設定を保存せずに元の画面に戻ります。</p>

### [3] 運転モードを選ぶ

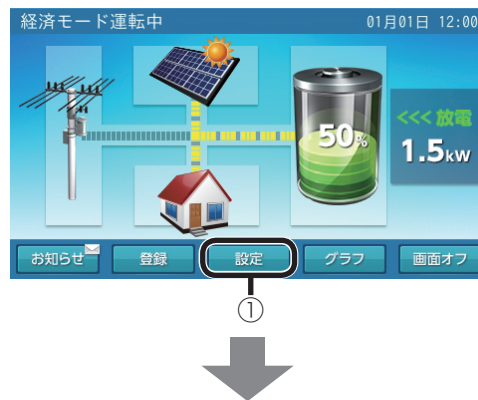
通常時の運転モードをお客様のお好みに合わせて選択してください。

- 製品出荷時は [経済モード] です。

- 設定できる運転モードは以下の通りです。

<p>自動運転モード</p>	<p>経済モード (推奨) グリーンモード</p>
<p>手動運転モード</p>	<p>充電 放電 待機</p>

- ① 設定情報画面に切り替える  
[設定] をタッチします。

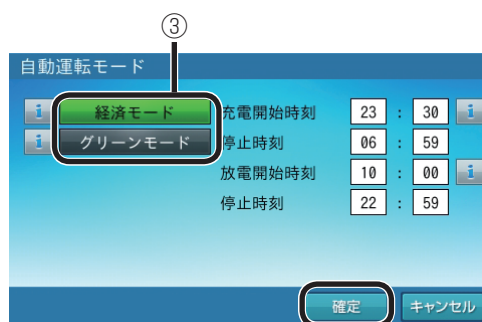


## 室内リモコン各部の名称とはたらき

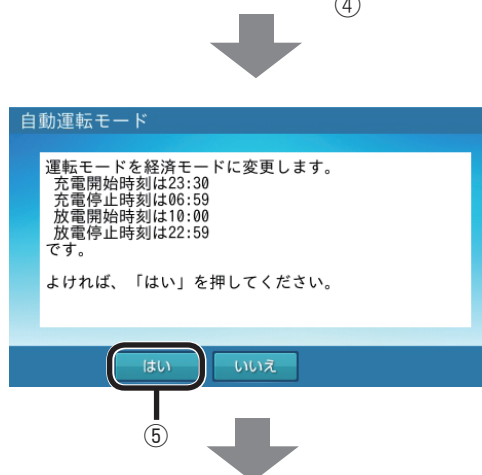
- ② 運転モード種類を選択する  
運転モードの [自動] または [手動] をタッチします。



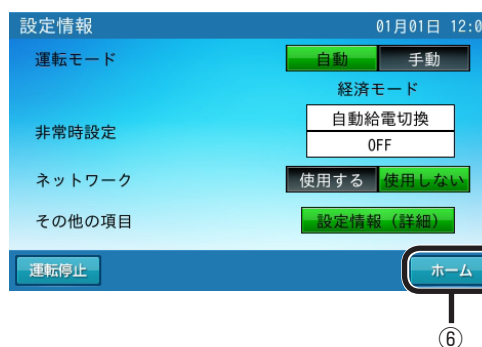
- ③ モードを変更する  
設定したいモードをタッチします。  
充放電時刻の設定については、「充放電時間を設定する」(74 ページ) を参照ください。



- ④ 変更したモードを確定する  
[確定] をタッチします。



- ⑤ 変更したモードを保存する  
[はい] をタッチします。



- ⑥ ホーム画面に戻る  
[ホーム] をタッチします。

## [4] 非常時（停電時）の設定をする

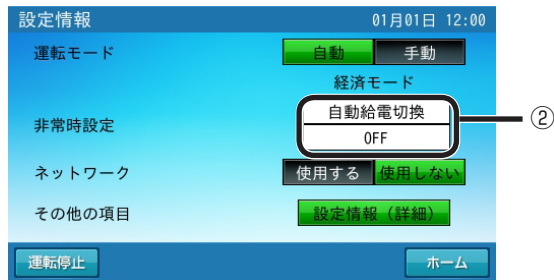
もしも停電になったときのために、非常時設定や非常時安心設定をお客様のお好みに合わせて選択してください。

- 製品出荷時の設定は次のとおりです。  
 「非常時設定」：[自動給電切換設定]  
 「非常時安心設定」：[OFF]

- ① 設定情報画面に切り替える  
 [設定] をタッチします。



- ② 非常時設定を選択する  
 設定したい項目をタッチします。



- ③ 設定を変更する  
 ◀/▶ をタッチします。

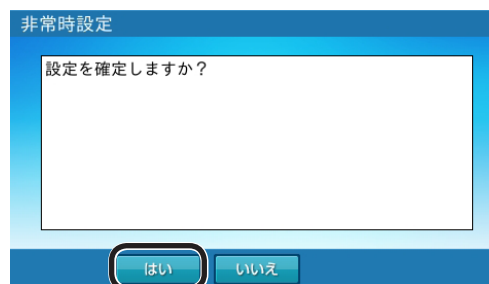
- ④ 変更した内容を確定する  
 [確定] をタッチします。



## 室内リモコン各部の名称とはたらき

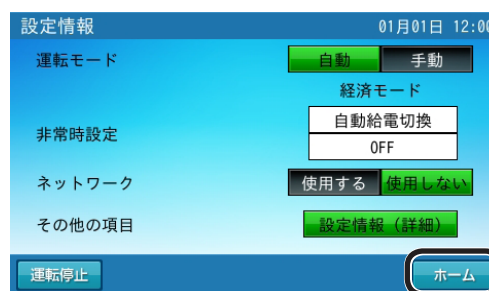
### ⑤ 設定を保存する

[はい] をタッチします。



### ⑥ ホーム画面に戻る

[ホーム] をタッチします。

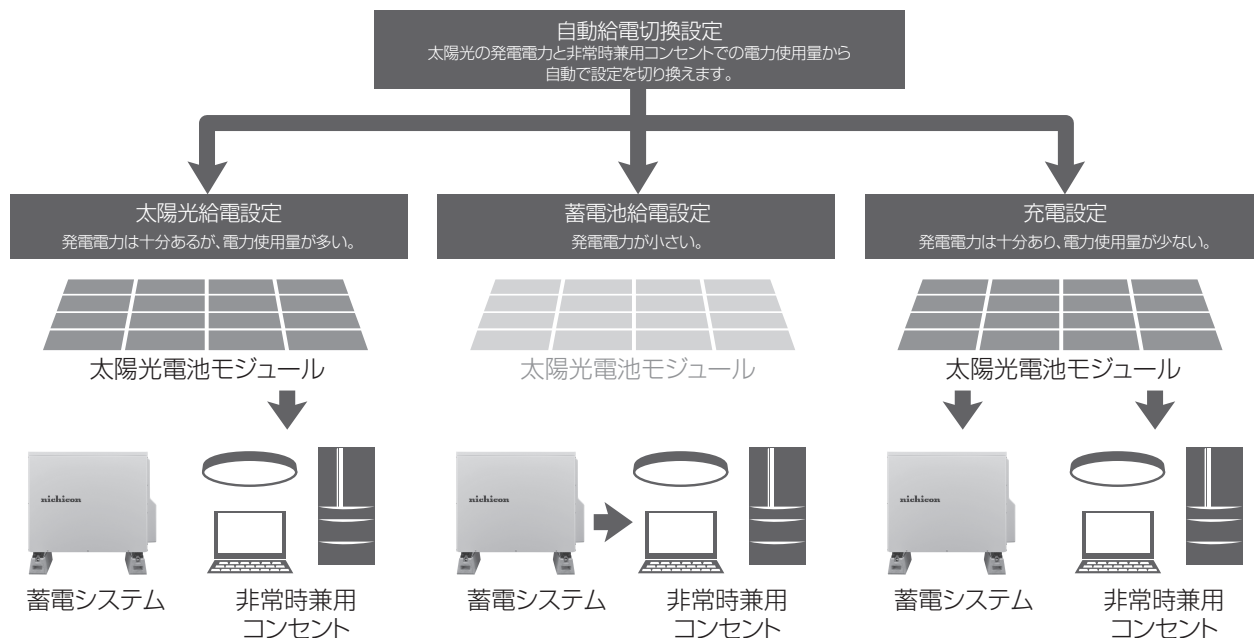


非常時設定	次ページをご覧ください。
非常時安心設定	<p>停電時に蓄電システムから非常時兼用コンセントへの給電ができるように、通常時の利用を指定蓄電池残量までに制限する設定です。指定蓄電池残量を下回ると給電を停止します。</p> <p>指定できる蓄電池残量は0 (OFF)、30、40、50、60、70%です。蓄電池残量が設定値+ 5% 以下の場合、誤作動防止のため、給電を開始しません。</p>



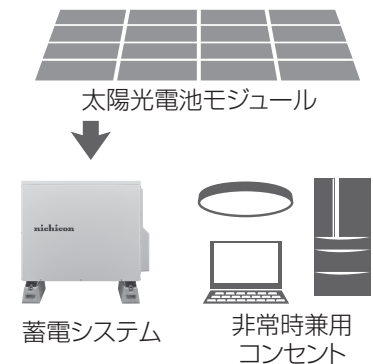
非常時設定について

注：太陽光パワーコンディショナは、自動で自立出力の ON、OFF を行いません。  
太陽光パワーコンディショナの「取扱説明書」に従って、停電直後、復電直後は操作してください。



- 自動給電切換設定は、太陽光給電設定、蓄電池給電設定、充電設定を太陽光の発電電力と負荷電力を判断しながら自動で切り換えます。最も利用しやすい設定です。
- 太陽光給電設定は、太陽光から非常時兼用コンセントに給電（最大 15 A：1500 W）を行います。蓄電システムから非常時兼用コンセントへの給電、太陽光から蓄電システムへの充電は行いません。太陽光の発電電力が小さい場合、家電製品を稼働できない場合があります。
- 蓄電池給電設定は、蓄電システムから非常時兼用コンセントに給電（最大 15 A:1500 W）を行います。太陽光から蓄電システムへの充電、非常時兼用コンセントへの給電は行いません。
- 充電設定は、太陽光から非常時兼用コンセントへの給電（最大 15 A：1500 W）、蓄電システムへの充電を行います。  
非常時兼用コンセントでの消費電力が大きいと、充電できない場合があります。太陽光の発電電力が小さい場合、非常時兼用コンセントへの給電、蓄電システムへの充電ともできない場合があります。

強制充電設定



- 強制充電設定は、太陽光から蓄電システムへの充電のみ行います。非常時兼用コンセントへの給電は一切行われません。

## [5] 充放電時間を設定する

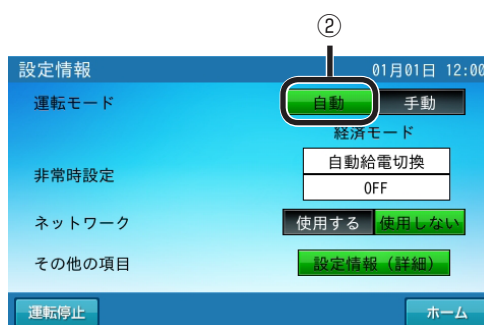
通常運転時の充電開始 / 停止時刻、放電開始 / 停止時刻を、運転モードごとに設定できます。

- 製品出荷時の設定は次のとおりです。  
「充電開始 / 停止時刻」：23:05 ~ 6:59  
「放電開始 / 停止時刻」：10:00 ~ 22:59

- ① 設定情報画面に切り替える  
[設定] をタッチします。



- ② 運転モードを選択する  
[自動] をタッチします。



- ③ 設定を変更する  
設定を変更したい項目の時刻をタッチします。



## 室内リモコン各部の名称とはたらき

### ④ 時刻を設定する

数字キーをタッチすると、新しい時刻が入力されます。  
←/→をタッチすると、カーソルが移動します。



### ⑤ 変更を決定する

[決定] をタッチします。

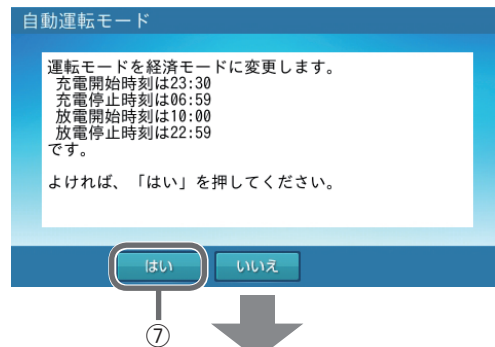
### ⑥ 設定を確定する

[確定] をタッチします。



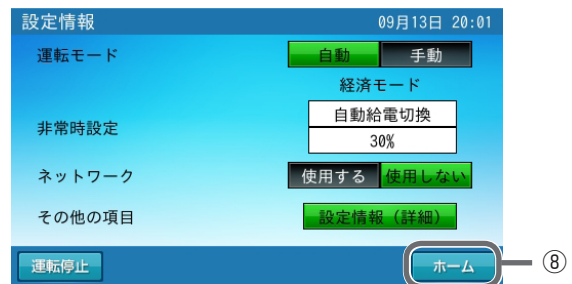
### ⑦ 変更したモードを保存する

[はい] をタッチします。



### ⑧ ホーム画面に戻る

[ホーム] をタッチします。



<p><b>充電開始時刻</b> <b>停止時刻</b></p>	<p>蓄電池に充電するときの、開始 / 停止時刻を設定できます。深夜時間帯がお得です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 充放電の時間帯が重複しないように設定してください。また、開始 / 停止時刻が同じにならないようにしてください。</li> </ul>
<p><b>放電開始時刻</b> <b>停止時刻</b></p>	<p>蓄電池から電力供給するときの、開始 / 停止時刻を設定できます。深夜時間帯以外がお得です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 充放電の時間帯が重複しないように設定してください。また、開始 / 停止時刻が同じにならないようにしてください。</li> </ul>

※ 周囲温度が低い場合、蓄電池の特性上充電可能量が減少し、100%にならない場合がありますが故障ではありません。

## 室内リモコン各部の名称とはたらき

### [6] 室内リモコンのタッチパネルや操作音の設定を変える

タッチパネルの画面の明るさや画面操作音などを、お好みで調整してください。

● 製品出荷時の設定は次のとおりです。

「画面オフ時間（分）」：[5]

「操作音」：[ON]

「画面明るさ」：[5]

#### ① 設定情報画面に切り替える

[設定] をタッチします。



#### ② 設定情報（詳細）に切り替える

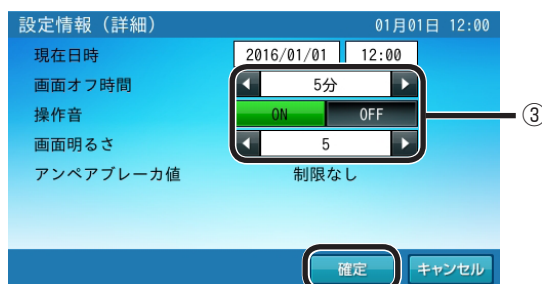
[設定情報（詳細）] をタッチします。



#### ③ 設定を変更する

設定したい項目をタッチします。

◀/▶をタッチすると、時間などが変更できます。



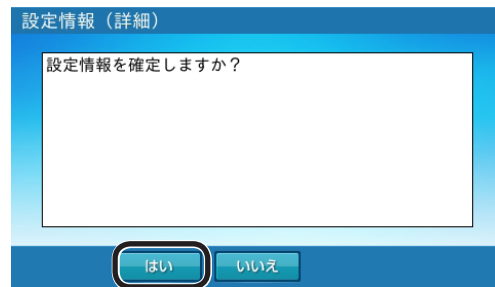
#### ④ 設定を確定する

[確定] をタッチする。

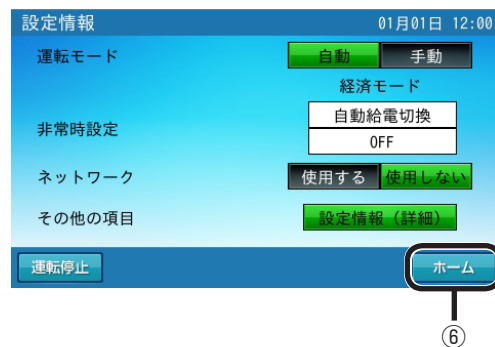
※アンペアブレーカ値が表示されますが、値はお客様では変更できません。

## 室内リモコン各部の名称とはたらき

- ⑤ 変更した設定を保存する  
[はい] をタッチします。



- ⑥ ホーム画面に戻る  
[ホーム] をタッチします。



画面オフ時間 (分)	タッチパネルを操作していない場合に、画面がオフするまでの時間 (1 ~ 10 分) を設定できます。
操作音	画面操作音を ON/OFF 設定できます。
画面明るさ	タッチパネルが見つらいと感じたとき、お部屋の明るさに合わせて、タッチパネルの明るさを 10 段階で設定できます。
アンペアブレーカ値	契約アンペアに従って設置時に値が設定されます。 20 A ・ 30 A ・ 40 A ・ 50 A ・ 60 A ・ 制限なし、が設定値です。 蓄電池が充電時に設定された値の電流を超えないように制御します。

## [7] 日時の設定

現在日時の設定ができます。

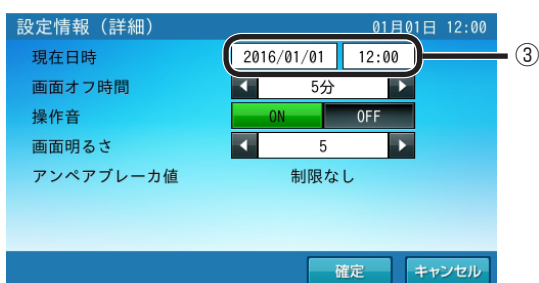
- ① 設定情報画面に切り替える  
[設定] をタッチします。



- ② 設定情報（詳細）に切り替える  
[設定情報（詳細）] をタッチします。



- ③ 日時設定画面に切り替える  
[日時] をタッチします。



- ④ 変更日時を選択する  
変更したい日時をタッチします。



- ⑤ 日時を入力する（24 時間表示）  
数字キーをタッチすると、新しい日時が入力されます。  
←/→をタッチすると、カーソルが移動します。

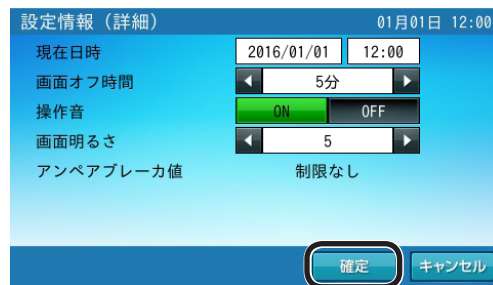


- ⑥ 変更した設定を確定する  
[確定] をタッチします。

## 室内リモコン各部の名称とはたらき

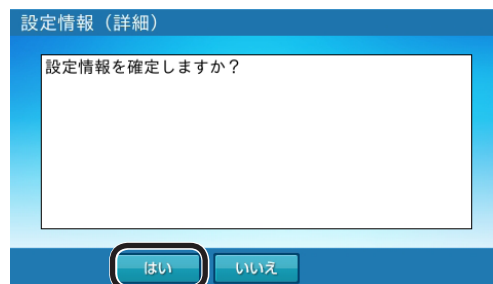
### ⑦ 設定を確定する

[確定] をタッチします。



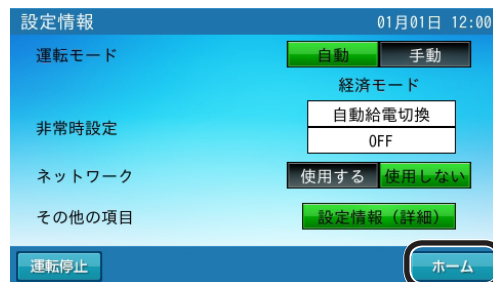
### ⑧ 設定を保存する

[はい] をタッチします。



### ⑨ ホーム画面に戻る

[ホーム] をタッチします。



⑨

- 現在時刻は長年使用されると進みや遅れが生じることがあります。定期的に修正することをお勧めします。現在時刻に進みや遅れが生じると、割高な電気料金で充電を行ってしまう等の可能性があります。

# ネットワークの設定をする

見守りサービスを利用する場合、インターネットに接続するため、IP アドレスおよび DNS サーバーの設定をしてください。

ネットワークの環境が無い状態でネットワークの設定を有効にした場合、IP アドレス等設定が間違っている場合、点検コード「BC551」が表示されます。その場合、ネットワークの設定を見直してください。

- 出荷時はネットワークの設定が、「使用しない」になっています。
- 無線 LAN を利用する際には、無線 LAN アダプタ（無線 LAN 子機）が必要になります。  
対応無線 LAN アダプタは、「planex 社製 GW-450D KATANA」、「planex 社製 GW-450D2」、「planex 社製 GW-450S」、「Buffalo 社製 WI-U2-433DM」、「I-O DATA 社製 WN-AC433UK」です。

## ■ ネットワークを使用する場合（有線）

- ① 設定情報画面に切り替える  
[設定] をタッチします。



- ② ネットワークを「使用する」を選択する  
[使用する] をタッチします。



- ③ IP アドレスの設定方法を選択する  
有線 LAN が選択されていることを確認して、[自動設定]、[手動設定] を選びタッチします。（有線 LAN が選択されていない場合は [有線 LAN] をタッチします。）

- [自動設定] を選んだ場合は手順⑤の操作を行ってください。
- [手動設定] を選んだ場合は手順④の操作を行ってください。

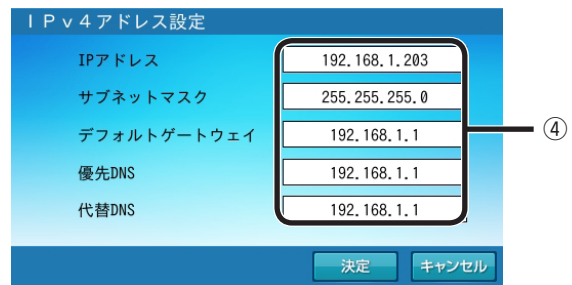




## ネットワークの設定をする

### ④ 各項目を入力する

各項目の箇所をタッチすると、キーボードが表示され入力できます。  
確定時には [決定] をタッチします。



IPv4 アドレス設定

IPアドレス	192.168.1.203
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
優先DNS	192.168.1.1
代替DNS	192.168.1.1

決定 キャンセル

④

### ⑤ PROXY 設定を選択する

- [ON] を選んだ場合は手順⑥の操作を行ってください。
- [OFF] を選んだ場合は手順⑦の操作を行ってください。



ネットワーク設定

有線/無線選択  有線LAN  無線LAN

IPアドレス設定  自動設定  手動設定

PROXY設定  ON  OFF

通信状態 確定 キャンセル

⑤

### ⑥ 各項目を入力する

各項目の箇所をタッチすると、キーボードが表示され入力できます。  
確定時には [決定] をタッチします。



PROXY設定

PROXYアドレス

ポート番号 0

決定 キャンセル

⑥

### ⑦ 設定を確定する

[確定] をタッチします。  
確定してよいか確認メッセージが表示されますので、[はい] をタッチします。



ネットワーク設定

有線/無線選択  有線LAN  無線LAN

IPアドレス設定  自動設定  手動設定

PROXY設定  ON  OFF

通信状態 確定

⑦

## ネットワークの設定をする

### ■ ネットワークを使用する場合（無線）

※ 無線 LAN アダプタ(無線 LAN 子機)が室内リモコンに接続されていないと、無線 LAN は選択できません。  
無線 LAN アダプタをリモコン底面にある USB ポート（8 ページ）に接続してください。

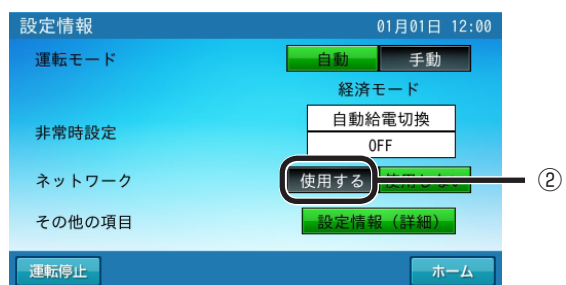
#### ① 設定情報画面に切り替える

[設定] をタッチします。



#### ② ネットワークを「使用する」を選択する

[使用する] をタッチします。



#### ③ 無線 LAN を選択する

[無線 LAN] をタッチします。



## ネットワークの設定をする

### ④ 各項目を入力する

- [検索] を選んだ場合、使用する無線 LAN ルーターの SSID を選択してください。また、ルーターで設定されている暗号化方式の選択、およびパスワード (セキュリティキー) の入力を行ってください。パスワードは、その箇所をタッチするとキーボードが表示され入力できます。
- [手動] を選んだ場合、使用する無線 LAN ルーターの SSID の入力、ルーターで設定されている暗号化方式の選択、およびパスワード (セキュリティキー) の入力を行ってください。入力項目は、その箇所をタッチするとキーボードが表示され入力できます。



確定時には [決定] をタッチします。

### ⑤ 設定を確定する

- [確定] をタッチします。  
確定してよいか確認メッセージが表示されますので、[はい] をタッチします。



## ■ ネットワークを使用しない場合

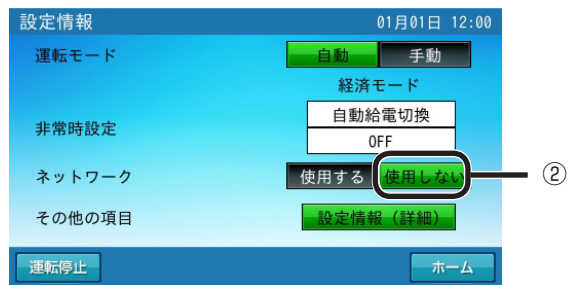
### ① 設定情報画面に切り替える

- [設定] をタッチします。

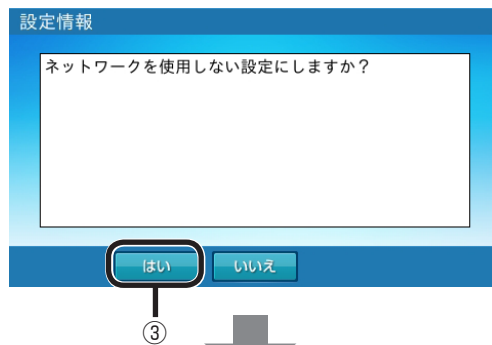


## ネットワークの設定をする

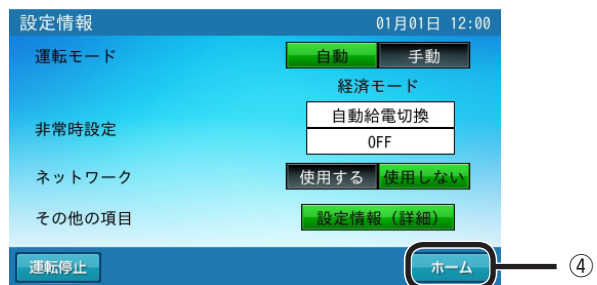
- ② ネットワークを「使用しない」を選択する  
[使用しない]をタッチします。



- ③ 設定を確定する  
[はい]をタッチします。



- ④ ホーム画面に戻る  
[ホーム]をタッチします。



# ネットワーク接続の通信状態を確認する

ネットワーク接続の通信状態を確認できます。

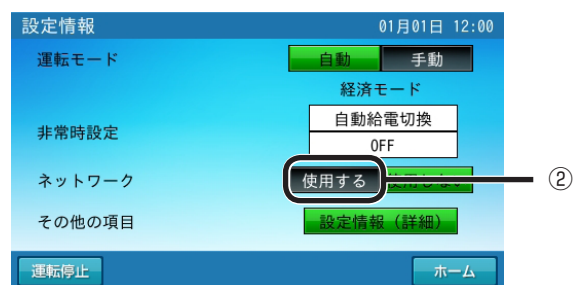
① 設定情報画面に切り替える

[設定] をタッチします。



② ネットワークを「使用する」を選択する

[使用する] をタッチします。



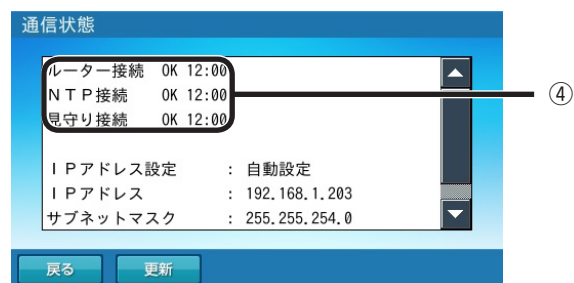
③ ネットワーク設定の「通信状態」を選択する

[通信状態] をタッチします。



④ 通信状態を確認する

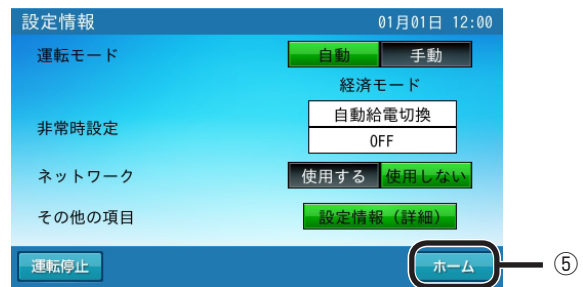
- [OK] の場合  
ネットワークに接続できています。  
[戻る] をタッチし、ネットワーク設定画面に戻ります。
- [確認中] の場合  
ネットワーク接続を確認しています。  
少しお待ちください。
- [NG] の場合  
[戻る] をタッチし、ネットワーク配線、ルータ設定、室内リモコンのネットワーク設定を確認してください。  
ネットワーク設定の確認は、「ネットワークの設定をする」(80 ページ) を参照ください。



## ネットワーク接続の通信状態を確認する

### ⑤ ホーム画面に戻る

ネットワーク設定画面上で [キャンセル] をタッチします。  
その後、設定情報画面上で [ホーム] をタッチします。



※ 本工事説明書に記載されているリモコン画面は事例であり、実際とは異なる場合があります。

# 日除け板

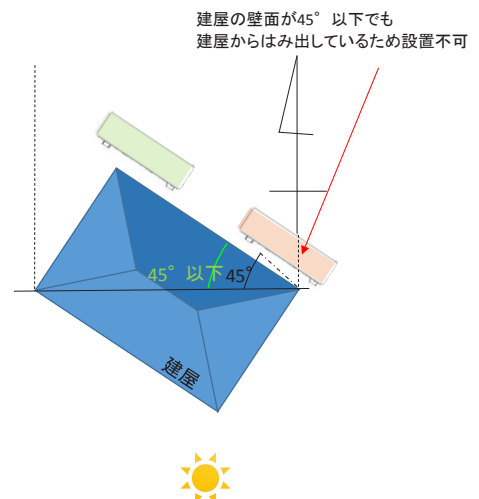
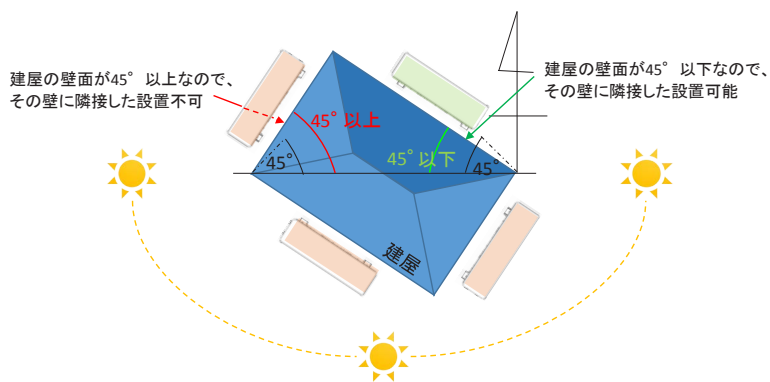
## 日除け板取付け（日除け板が必要な場合）

設置場所が下記の日除け板なし単独設置条件を満たさない場合は、オプションの日除け板を取付けてください。  
**日除け板なし単独設置条件**

1. 日中、建屋により日陰になる場所であること
2. 日がわずかでも当たる場合には、図示の範囲内であること  
※設置方向は日除け板が付く前面側を南向きとする  
(壁面に隣接している場合は、壁面と反対側に日除け板を設置する)  
※建屋の隣接は日除け板なし条件には考慮しない

■ :NGの蓄電システム設置位置(日除け板必要)

■ :OKの蓄電システム設置位置(日除け板不要)



# 仕様

型番	ESS-U3S1、ESS-U3S1J	
外形寸法	W800 × H650 × D300 mm(配線パネル込) W740 × H650 × D300 mm(本体) (蓄電ユニット：ESS-U3S1、ESS-U3S1J)	
	W170 × H140 × D23.1 mm (室内リモコン：ESS-R3)	
質量	77 kg (蓄電ユニット)：ESS-U3S1、ESS-U3S1J	
	320 g (室内リモコン)：ESS-R3	
蓄電池	定格容量	4.1 kWh 搭載された蓄電池の総容量 (注 1) (注 2)
	種類	リチウムイオン蓄電池
	電池構成	1 モジュール 12 直列 1 並列
	定格電圧	DC44.16 V (入力電圧範囲：DC37.2 V ~ DC49.8 V)
系統連系運転時定格	定格出力	1.5 kW ± 5 %
	定格出力電圧	AC101 V (単相 2 線式、ただし接続は単相 3 線式)
	出力電圧範囲	AC101 V ± 6 V
	定格周波数	50 または 60 Hz
	蓄電パワーコンディショナ 単体定格時電力変換効率	放電時電力変換効率：90 % (温度 25 ± 2 °C、蓄電池定格電圧時)
		充電時電力変換効率：91 % (温度 25 ± 2 °C、蓄電池定格電圧、CC=29.9 A 時)
	出力基本波力率	約 1 (定格出力時)
	出力電流歪率	総合電流歪率 5 %、 各次電流歪率 3 % 以下 (定格出力時)
不要輻射	VCCI クラス B 準拠	
蓄電システム自立出力定格	最大出力	1.5 kVA ± 5 %
	出力電流	最大 15 A
	出力電気方式	単相 2 線式
	定格出力周波数	50 または 60 Hz
	出力周波数精度	定格周波数に対し ± 1 % 以内 (温度 25 ± 2 °C)
主回路方式	インバータ変換方式	連系運転時：自励式電圧型電流制御方式
		自立運転時：自励式電圧型電圧制御方式
	スイッチング方式	正弦波 PWM 方式
	絶縁方式	非絶縁トランスレス方式
	冷却方式	強制空冷方式

注 1) 蓄電池容量は単電池 (セル) の容量合計を示します。

使用開始時に実際に使用できる充放電量は、概ね蓄電池容量の約 92 % が目安 (※) となります。

※ 製品タイプより「パワーコンディショナーの変換ロス」「耐久性向上のための蓄電池使用料の制限」等が異なるため

注 2) 蓄電池は経年劣化により容量が徐々に減少します。

ただし、製品タイプや、充放電の頻度・使用環境 (温度等) などにより、劣化の仕方 (※) は異なります。

※ 例 1：毎年、ほぼ均一に減少する場合

例 2：使用開始当初の減少はやや大きい、その後は安定して減少しにくくなる場合等

**nichicon**

京都市中京区烏丸通御池上る 〒604-0845

<http://www.nichicon.co.jp>

LV43202-12